

令和8年度 社会福祉法人慈光明徳会 事業計画

はじめに

「運営基盤を再構築し、質を定着させる年」

— 事務・経理・勤怠・保育・療育の標準化と安定運用 —

総じて「固める」一年とする

1. 事業環境および現状認識

本法人を取り巻く事業環境は、少子化の進行や人材不足の深刻化、制度改正や物価上昇など、経営上の不確実性が高まる状況にある。一方で、保育・療育・学童を横断した包括的な子育て支援に対する社会的ニーズは年々高まっており、法人の在り方そのものが問われる時代に移行している。

本法人は、熊本県の過疎地域と東京都内の都市部という異なる地域特性のもとで、認定こども園、認可保育所、小規模保育事業、障害児通所支援事業、放課後児童健全育成事業、地域子育て支援拠点事業

等を展開してきた。これにより、地域ニーズに応じた柔軟な運営ノウハウを蓄積するとともに、多機能型の子育て支援体制を構築してきた。

一方で、拠点数および事業の拡大に伴い、園長・管理者等の中間管理職の育成や、運営品質の平準化、意思決定の属人化といった内部課題も顕在化している。これらの課題に的確に対応し、外部環境の変化を機会として捉えることが、今後の持続的な法人運営に不可欠である。

2. SWOT 分析による経営環境の整理

上記の現状認識を踏まえ、本法人の内部環境および外部環境について SWOT 分析を行った。

本法人の強みとしては、地域特性の異なる複数エリアでの事業運営実績、多様な事業を展開する総合的な子育て支援体制、明確な法人理念の存在、ICTを活用した本部集約型運営、ならびに月次監査を軸とした財務管理体制が挙げられる。

一方、弱みとしては、中間管理職育成の遅れ、拠点間における運営品質や人材育成のばらつき、意思決定の属人化リスク、人事評価制度およびキャリアパス制度の定着不足が挙げられる。

外部環境に目を向けると、保育・療育・学童を横断した支援ニーズの高まり、障害児支援や誰でも通園制度等の制度拡充、DX や働き方改革への社会的要請、地域連携型モデルへの期待といった機会が存在する。

一方で、少子化による園児数減少、人材獲得競争の激化、制度改正による収支構造への影響、物価および人件費上昇といった脅威も顕在化している。

3. SWOT 分析を踏まえた次年度重点方針

上記 SWOT 分析を踏まえ、次年度は「拡大」よりも「基盤の強化」を重視し、以下の三つを重点方針として事業運営に取り組む。

重点方針①

多機能展開を活かした、選ばれる子育て支援体制の確立

本法人が有する多様な事業機能を有機的に連携させ、保育・療育・学童を横断した包括的な子育て支援体制の構築を進める。地域ニーズや制度動向を的確に捉え、各事業の強みを活かした連携を強化することで、地域から信頼され、選ばれる法人としての価値向上を図る。

重点方針②

人材育成と組織基盤の強化による、持続可能な運営体制の構築

中間管理職の育成および拠点間格差の是正を最重要課題と位置づけ、人事評価制度およびキャリアパス制度の本格運用を推進する。園長・管理者層の育成を体系化するとともに、業務の標準化および DX を活用した属人化の解消を進め、組織として安定的に機能する運営基盤を構築する。

重点方針③

財務の安定化とリスク耐性を高める経営管理体制の強化

少子化や人材不足、制度改正等の外部環境変化に対応するため、月次監査を軸とした財務管理を一層強化し、早期是正とリスク対応を徹底する。無理な事業拡大は行わず、既存事業の質と収支構造の安定化を優先することで、中長期的に持続可能な法人経営を実現する。

4. まとめ

本法人は、SWOT 分析により明らかとなった自法人の強みを最大限に活かしつつ、弱みの克服と外部環境への適応を図ることで、次年度を「経営基盤を固める年」と位置づける。重点方針に基づく計画的な事業運営を通じて、地域社会における中核的な子育て支援法人(本気の子育て応援隊)としての役割を果たしていく。

次年度 重点施策・KPI 一覧表

(SWOT 分析および次年度重点方針に基づく)

【重点方針①】

多機能展開を活かした、選ばれる子育て支援体制の確立

重点施策	取組内容	数値目標(KPI)	管理主体
事業間連携の強化	保育・療育・学童間の情報共有・連携事例の創出	各エリア 1 事例以上 ／年	本部・管理者
地域ニーズ対応力の向上	地域特性に応じた支援内容の見直し・改善	新規・改善施策 年 2 件以上	各園・事業所
定員管理の最適化	入退園管理・利用率の継続的把握	定員充足率 95%以上	園長・管理者
サービス品質の維持向上	行政監査・指導事項への予防的対応	是正・指摘件数 前年比▲20%	本部

【重点方針②】

人材育成と組織基盤の強化による、持続可能な運営体制の構築

重点施策	取組内容	数値目標(KPI)	管理主体
園長・管理者育成	園長会・管理者研修の体系的実施	研修実施率 100%	本部
人事評価制度の定着	全職員への評価実施と面談	評価実施率 100%	園長・管理者
キャリアパス制度運用	等級・役割に基づく育成計画	対象者育成計画策定率 100%	本部
業務標準化の推進	マニュアル・運用ルール整備	主要業務整備率 90%以上	本部
職員定着率の向上	面談・フォロー体制の充実	年度離職率 10%以下	全管理職

【重点方針③】

財務の安定化とリスク耐性を高める経営管理体制の強化

重点施策	取組内容	数値目標(KPI)	管理主体
月次監査の徹底	収支状況の定期確認・是正	月次確認 100%実施	本部
赤字ライン管理	施設別赤字基準の共有・対応	赤字継続拠点 ゼロ	本部・園長
人件費コントロール	人件費率の継続的モニタリング	人件費率 前年差±1%以内	本部
経営リスク共有	経営課題・リスクの可視化	経営会議での共有 毎月実施	理事長・本部

幼保連携型認定こども園 慈光こども園 2026 年度事業計画

社会福祉法人慈光明徳会

1. 基本情報

(1) 所在地

熊本県球磨郡湯前町 1962-1

(2) 保育理念

- ・子どもの最善の利益を追求し保障していきます。
- ・子育てと仕事の両立支援に徹します。
- ・地域の子育て支援を行います。

(3) 保育方針

命を守ることを第一義にあげ、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に依拠し、安心・安全な環境のもと、以下のメソッドに基づいて教育・保育を行います。

- ・脳科学の知見を活かした適時性の保育・教育
- ・JPメソッドによる運動能力の向上
- ・体の中から生きる力をはぐくむ「食育」
- ・自然を通した「五感教育」
- ・「躰教育」慈光こども園仕のきまり・人として正しい行いを学びます

上記、バランスの取れたプログラムにより、子どもの無限の可能性を引き出す環境の中で、変化する時代に対応できる「たくましく生き抜く力」を育みます

(4) 保育目標

たくましく生き抜く力をはぐくみます

世のため人のために生きようとする人財になってほしい。

そのために、自立した誇りある人としての土台をつくります。

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員
全体	55 名	39 名	50 名	+11 名	+5 名
0 歳児	7 名	5 名	8 名	+3 名	▲1 名
1 歳児	7 名	5 名	5 名	0 名	+2 名
2 歳児	10 名	9 名	9 名	0 名	+1 名
3 歳児	7 名	6 名	6 名	0 名	▲2 名
4 歳児	12 名	11 名	10 名	▲1 名	▲5 名
5 歳児	12 名	12 名	12 名	0 名	+10 名
0・1・2 歳児	24 名	19 名	22 名	+3 名	+2 名
3・4・5 歳児	31 名	29 名	28 名	▲1 名	+3 名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	28 名	25 名	4 名	1 名	(0 名)
園長	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
副園長	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
保育教諭	13 名	11 名	2 名	0 名	(0 名)
保育補助	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
調理員（栄養士・調理師含む）	2 名	2 名	0 名	0 名	(0 名)
看護師	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
事務員	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
一時預かり職員	2 名	2 名	1 名	1 名	(0 名)
子育て支援員	2 名	2 名	0 名	0 名	(0 名)
学童指導員	4 名	3 名	1 名	0 名	(0 名)
送迎バスドライバー	2 名	2 名	0 名	0 名	(0 名)

(3) 自己評価結果

今年度の施設自己評価の実施はありませんでした

(4) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・ 命を守る教育
- ・ 子どもの無限の可能性を引き出す環境づくりをおこない徳知体のバランスの取れた成長発達を促す
- ・ 異年齢教育・保育、年齢別の教育・保育をバランスの取れた形で運用していくことで発達を保障していく
- ・ 継続は力なり。全ての活動において継続できる計画を立て実行する
- ・ ワクワクタイムを継続してダンス・英語・日本の美しい言葉に触れる

振り返り・課題

未満児クラスは1・2歳児、以上児クラスは3・4・5歳児の異年齢クラス編成で一年過ごしました。

1・2歳児クラスでは、ベテラン保育教諭も在籍する中、落ち着いた言葉かけと丁寧な誘導を大切にしながら保育を行いました。特に男児の多い2歳児クラスは、明るさと活気にあふれ、元気いっぱいの雰囲気の中で日々を過ごしました。安心できる環境のもと、リトミックやなぐり書きの毎日の積み重ねを大切にまた自分できることは自分で意識し温かく見守ることができました。

3・4・5歳児クラスでは、年間行事へ向けた取り組みを進める中であっても、できる限り

日々のカリキュラムやルーティンを崩さないことを大切にしました。継続を重んじる日々の積み重ねが、カリキュラムや体操を通して子どもたちの確かな力となりました。

一方で、少子化に伴う園児数の減少は避けられない現実です。社会状況を見据えながらも、本園のビジョンを見据えて最善の保育環境を模索してまいります。

2026年度は、新たに0・1・2歳児の異年齢クラス編成、3・4・5歳児の年齢別クラス編成としてスタートします。それぞれの発達段階により丁寧に寄り添いながら、異年齢の良さと年齢別の良さを活かした保育を展開していきます

② 人材育成

目標

法人研修・カタグルマにより、高い視座を持てる職員を育成する

- ・ SBT 研修 6 回
- ・ 階級別研修年 3 回、職員研修 2 回
- ・ パート研修
- ・ JP メソッドによるフィジカル研修 月 1 回
- ・ 法人年齢別・部署別研修 各部署年 2 回
- ・ チーム力の強化 日々
- ・ 強みを生かしたキャリアアップの支援 随時
- ・ コミュニケーション能力の向上 日々
- ・ カタグルマによる園長のフィードバック 随時
- ・ 統括園著の MUGEN ムービーによる思考訓練

振り返り・課題

職員一人ひとりが自らの意見を持ちながらも、園の理念と目的を共有し、同じ方向を向いて力を発揮できる「チーム慈光」の形成を目指しました。

新人研修・パートナー研修・職員研修・リーダー研修を計画的に実施しておりますが、学びを現場実践へと落とし込む力には個人差が見られます。そのため、各自の段階に応じた継続的かつ計画的なフォロー体制の充実が今後の課題であると捉えています。

全体職員研修を通して、法人理念および慈光メソッドについての共通認識は着実に図られてきています。今後は、各職員の強みや特性を見極めた適材適所の役割配置を行い、組織全体の力を固めていきます。

③ 運営管理

目標

園児数の減少による収入減を意識した運営に努める

- ・ 運営費の減少による経費削減の強化・・・ランニングコストを抑えていく
- ・ 修繕箇所の増加による修繕費の予算増
- ・ 命に直結する衛生管理・安全管理の維持強化
- ・ 子育てサークルから入園への流れを作る
- ・ 年 2 回、カタグルマによる保護者アンケート実施からの改善
- ・ 労務管理のペーパーレス化

各種補助事業・委託事業の実施

振り返り・課題

園児獲得に向けた戦略として、Instagram を活用した広報活動の発信の幅を広げることに注力しました。投稿内容には法人理念を繰り返し盛り込み、本園の保育方針や大切にしている価値観の浸透に努めています。

また、4 月より本格施行となる「こども誰でも通園制度」を見据え、体験保育や園庭開放などの機会を充実させ、入園へとつながる動線づくりを意識した取り組みを進めております。単なるイベント開催にとどまらず、本園の保育の魅力を直接体感していただく機会と

して位置づけております。今後の課題としては、継続的な園児確保に向けた広報戦略のさらなる強化と、イベント内容の質的向上が挙げられます。発信の継続性と一貫性を保ちながら、地域に選ばれる園づくりを推進していきます。

施設の修繕につきましては、安全性および緊急性を最優先に対応し今後は中長期的な視点に立った計画的な修繕計画を策定し、安心・安全な保育環境の維持と向上に努めます。

3. 当年度目標と施策

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・ 命を守る教育
- ・ 子どもの無限の可能性を引き出す環境づくりをおこない徳知体のバランスの取れた成長発達を促す
- ・ 異年齢教育・保育、年齢別の教育・保育をバランスの取れた形で運用していくことで発達を保障していく
- ・ 継続は力なり。全ての活動において継続できる計画を立て実行する
- ・ ワクワクタイムを継続してダンス・英語・日本の美しい言葉に触れる

① 保育活動 担当別

担当	目標
0・1・2歳児	1・2歳合同クラス ・ 1歳児と2歳児では発達の違いがあるため、それぞれのペースに合わせる ・ 基本的な生活リズムを整える（食事・睡眠・排泄） ・ 愛着形成を大切にし、信頼関係を築く ・ 子どもが安心して探索できる環境を作る
0歳児	愛着形成（笑顔の応答） ・ 身体能力の向上（歩行） ・ 絵本の読み聞かせ・わらべ歌あそび等言葉遊びを大切にする ・ 離乳食の完成から幼児食へのスムーズな移。 ・ 英語のヒアリングでネイティブな発音により聴覚を刺激 ・ 災害時に命を守るためのプログラムを大切にしていく
1歳児	基本的な生活習慣の確立へ向けて援助する ・ 自我の芽生えを待つ保育で援助する ・ 身体能力の向上（JP・リトミック） ・ 模倣活動を見守る ・ 言葉の発達を後押しする：自己表現能力を身につけて行く ・ 食べる意欲を引き出す食育：自分で食べようとする ・ 保育室との連携を行う ・ 絵本の読み聞かせで本好きの子に育てる ・ わらべ歌あそび等で言語能力をあげる ・ なぐり書きで筆圧を付ける ・ 英語のヒアリングでネイティブな発音により聴覚を刺激 ・ 災害時に命を守るためのプログラムを大切にしていく
2歳児	基本的な生活習慣の確立・自立へ向けて援助する ・ 自我の芽生えを育む ・ 身体能力の向上（JP・リトミック） ・ 絵本の読み聞かせ

	・わらべ歌あそび ・自分で食事を摂る ・会話が楽しめるように援助する ・社会性を身に着けていく。：他児とのかかわり ・短時間の集中力・自制心を育む ・英語のヒアリングにより英語に親しむ ・菜園活動を楽しむ。 ・保育室との連携を行う ・災害時に命を守るためのプログラムを大切にしてい
3・4・5歳児	言葉の発達・コミュニケーション力の育成 ・5歳児がリーダーシップを学ぶ(教える事で理解が深まる) ・3歳児・4歳児が年上の子の真似をして生活習慣が身につくルールを学ぶ ・こども同士の関わりを通じて、社会性や思いやりの心を育てる
3歳児	徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供、以下のプログラムを実施する ・身体能力の向上（JP） ・緻密な手指の運動能力を獲得させる ・読み書き数量に興味を示すよう働きかける ひらがなは読めるようになる ・絵本の拾い読みをする ・生活の中で数量に関わり関心を持つ ・生活習慣が自立する ・友達との関係を築く ・のびのびとした表現活動に誘。 ・什の決まりを知る ・英語が身近なものになる ・菜園活動を楽しむ。 ・ビオトープの生態に触れる ・食と体の関係を知る ・保育室との連携を行う ・災害時に自ら命を守る術を各種訓練を通して学ぶ
4歳児	徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供し、以下のプログラムを実施する ・身の回りのことはできるようになっている ・身体能力の向上・調整運動の獲得（JP） ・文字や数量の獲得 ・自分で絵本を読む ・正しいひらがなを覚える ・好きな絵本が読める ・お当番活動ができる ・ルールのある遊びができる ・チームワークの基礎を育む ・感情のコントロールできるようになる ・什の決まりを守ろうとする ・英語が身近なものになる ・菜園活動を楽しむ ・ビオトープの生態に触れる ・食と体の関係を知る

	・保育室との連携を行う ・災害時に自ら命を守る術を各種訓練を通して学ぶ
5 歳児	徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供し、以下のプログラムを実施する ・身辺自立の完成 ・高いレベルでの運動能力を身に着ける（JP） ・読み書き簡単な計算はできるようになる ・正しい文字を習得する。 ・什のきまりを理解し、周りにも伝えることができる ・仲間との共同作業・仲間を応援することができる ・ひも結びなどの緻密な作業もできるようになる ・英語が身近なものになる ・地域との交流をはかり地域の温かさに触れる ・地域の施設訪問を“1ヶ月に一回”の定期的訪問 ・湯前保育園との交流事業をおこない、就学へとつなげる ・小学校との接続期の連携体制を作り就学に繋げる ・園のリーダーとしての自覚を持ち、お手伝い活動を楽しむ ・菜園活動を楽しむ ・コンポストで肥料作り ・ビオトープの生態に触れる ・食と体の関係を知る ・保育室との連携を行う ・災害時に自ら命を守る術を各種訓練を通して学ぶ

② 人材育成

法人研修・カタグルマにより、高い視座を持てる職員を育成する

- ・ SBT 研修 6 回
- ・ 階級別研修年 3 回、職員研修 2 回
- ・ パート研修
- ・ JP メソッドによるフィジカル研修 月 1 回
- ・ 法人年齢別・部署別研修 各部署年 2 回
- ・ チーム力の強化 日々
- ・ 強みを生かしたキャリアアップの支援 随時
- ・ コミュニケーション能力の向上 日々
- ・ カタグルマによる園長のフィードバック 随時
- ・ 統括園著の MUGEN ムービーによる思考訓練

③ 運営管理

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

年齢ごと

体操・運動遊び

ステップブック

キッズサイエンス

平仮名・カタカナを読む

習字

プログラミング

0 歳児：愛着形成（笑顔の応答）・・・保育者の応答的保育により愛着形成を図る。常に笑顔で接する。泣いたら応答する。仕方なく待たせる時は

「ちょっと待ってね」の言葉かけを忘れない。

- ・身体能力の向上（歩行）・・・保育室でのサーキットあそび・爬虫類運動・歩行開始後は園庭で遊ばせる・階段の昇降あそびを日課とする。
- ・絵本の読み聞かせ・わらべ歌あそび等言葉遊びを大切にする・・・毎日の日課とする。
- ・離乳食の完成から幼児食へのスムーズな移行・・・個別対応にて家庭との連携のもと、幼児食へと導く・味になれない素材もある。無理はしない
- ・英語のヒアリング・・・パパッと英語の視聴を日課とする。
- ・非常訓練時の職員の動きの質を高める

施策 2

年齢ごと

体操・運動遊び

ステップブック

キッズサイエンス

平仮名・カタカナを読む

習字

プログラミング

1 歳児：基本的な生活習慣の確立へ向けて援助する・・・食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・挨拶・模倣活動

・自我の芽生えを丁寧に援助する・・・自分でやりたい気持ちを受け入れ、待つ保育に徹する。バランスボールを使ったフィジカルトレーニング

・身体能力の向上・・・保育室でのサーキットあそび・園庭で遊の戸外遊び・散歩・指先を使う遊び・リトミック・模倣活動を見守る・・・真似してしたがるものを見守り援助することで喜びの感情を育む。

・言葉の発達を後押しする：自己表現能力を身にもけて行く・・・二語文三語文と発達していくおしゃべりにとことん付き合う。聞いてもらう喜びを

あじあわせる。

・食べる意欲を引き出す食育：自分で食べようとする・・・手づかみからスプーンへ無理なく移行し、給食の時間が大好きな子供にする。

好き嫌いも出てくるが、無理

に食べさせない。

・保育室前のプランターで菜園活動をおこなう

・絵本の読み聞かせ・わらべ歌あそび・・・豊かな言語に触れさせることで語彙力を高めていくとともに本好きのこどもに育てていく。

・なぐり書き・・・筆圧訓練として、殴り書きの時間を日課とするとともに自由に表現することの楽しさを味わう。職員は丸だね～。

何色だね～などと表現活動を後押しする。

・英語のヒアリング・・・パパッと英語を視聴し、ネイティブな発音に触れるとともにリズムに乗って体を動かす楽しさを味合わせる。

・非常訓練時の職員の動きの質を高める

施策 3

コミュニケーション能力を育む

共同遊び

異年齢遊び

ごっこ遊び

ルールのある遊び

2 歳児：基本的な生活習慣の確立へ向けて援助する・・・食事・排泄・睡眠・着脱・清

潔・挨拶・お手伝い（模倣活動）

- ・自我の芽生えを育む・・・自己主張を受け入れ、共感していく。
- ・身体能力の向上・・・保育室でのサーキット・爬虫類運動・動物歩き・散歩・戸外遊び・指先を使う遊び・バランスボールを使った

フィジカルトレーニング・リトミック

- ・絵本の読み聞かせ・わらべ歌あそび・・・豊かな言語の振れ、語彙力を高めるとともに本好きのこどもにしていく。

- ・自分で食事を摂る・・・スプーン・箸を使って自分の力で完食することを喜ばせるように援助する。嫌いなものも１口でも挑戦しようとする

気持ちを言葉かけで育てていく。

- ・保育室前のプランターで菜園活動をおこなう
- ・会話が楽しめるように援助する・・・会話ができるようになるため、しっかり聞いてあげる。子供同士の会話も後足する。
- ・社会性を身に着けていく：他児とのかかわり・・・会話ができるようになり、自我も発達し、トラブルも出てくるが、年齢相応と冷静に対応

していく。

- ・短時間の集中力・自制心を育む・・・活動に着座で集中できる遊びを取り入れ、一定の時間遊べるように仕向けていく。

楽しい活層を準備していく。（難しすぎず簡単すぎず）

ぎず）

- ・英語のヒアリング・・・パパッと英語を視聴し、ネイティブな発音に触れるとともにリズムに乗って体を動かす楽しさを味合わせる。
- ・非常訓練時の職員の動きの質を高める

施策 4

表現活動

絵画制作

音楽（歌・ダンス）

3歳児：徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供、以下のプログラムを実施する

- ・身体能力の向上・・・毎日の体操・外遊び・ダンス・バランスボールを使ったフィジカルトレーニング・JP メソッド
- ・緻密な手指の運動能力を獲得させる・・・ハサミあそび・糊あそび等、指先を使う遊び
- ・読み書き数量に興味を示すよう働きかける ひらがなは読めるようになる・・・遊びの中でひらがなが読めるようにする。毎日一文字で 50 日

夏場水

に浮くカードで遊ぶ、生活の中で数に触れる・数層 100 まで

- ・絵本の拾い読みをする・・・簡単な絵本を準備しておく。0・1・2 等
- ・生活の中で数量に関わり関心を持つ・・・日常生活の中で数を意識させていく。これはいくつ？何人？等々身近なもので数遊びをしていく
- ・生活習慣が自立する・・・食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・挨拶・お手伝いは自立
- ・保健指導を通して、自分の身体に関心を持つ
- ・友達との関係を築く・・・トラブルもチャンスととらえ、保育者を仲介として解決法を学ばせていく
- ・のびのびとした表現活動に誘う・・・園長先生の絵画教室をはじめ自由な表現活動を取り入れる。
- ・什の決まりを知る・・・毎日唱和
- ・ワクワクタイムを楽しむ・・・ダンス・英語・季節の歌を楽しみ、ことわざや詩を唱和することで日本語の美しさ・豊かさに触れる
- ・英語が身近なものになる・・・パパッと英語を日課とすることでリズム遊びを兼ねたネ

イティブな発音を身に付けていく。

- ・お当番活動を楽しむ
- ・保育室前のプランターで菜園活動をおこなう
- ・三大栄養素を学ぶ
- ・各種訓練（非常訓練・交通指導）により自らの命の守り方を学ぶ

施策5

ルールを守る

未来への10の約束の順守

徳体知のバランスの取れたカリキュラムを提供し以下のプログラムを実施する。

4歳児：徳体知のバランスの取れたカリキュラムを提供し、以下のプログラムを実施する

- ・身体能力の向上・調整運動の獲得・・・毎日の体操・跳び箱・ダンス・外遊び・バランスボールを使ったフィジカルトレーニング JPメソッド
- ・文字や数量の獲得・・・ひらがなが書けるようになり、カタカナが読め、書けるようになる。200までの数唱ができる。日常生活の中で数・量の概念に触れる経験をする。
- ・自分で好きな絵本を読む・・・絵本をいつでも見ることのできる環境を作る
- ・正しいひらがなが書ける・・・習字の時間に習得する
- ・お当番活動ができる・・・エプロン等の着衣も自分で行えるようになっていき、給食の手伝いができ、朝礼活動も喜んで行う
- ・身の回りのことはできるようになっている・・・基本的な生活習慣は完成する。
- ・保健指導を通して、自分の身体に関心を持つ
- ・ルールのある遊びができる
- ・チームワークの基礎を育む・・・友達と考えながら行動を共にできるようになる。
- ・感情のコントロールができるようになる・・・我慢する心を育てる。
- ・什の決まりを守ろうとする・・・毎日唱和する。
- ・英語が身近なものになる・・・パパッと英語を日課とすることでリズム遊びを兼ねたネイティブな発音を身に付けていく。
- ・ワクワクタイムを楽しむ・・・ダンス・英語・季節の歌を楽しみ、ことわざや詩を唱和することで日本語の美しさ・豊かさに触れる
- ・保育室前のプランターで菜園活動をおこなう
- ・三大栄養素を学ぶ
- ・各種訓練（非常訓練・交通指導）により自らの命の守り方を学ぶ

② 人材育成

施策1

- ・SBT研修
- ・階級別研修年3回、職員研修2回
- ・JPTCによるフィジカル研修 月1回
- ・法人年齢別・部署別研修 各部署年2回
- ・チーム力の強化 日々
- ・強みを生かしたキャリアアップの支援 随時
- ・コミュニケーション能力の向上

施策2

階級別研修 園長・主幹・職員研修 年間通して実施 役割を認識する。

学んだ事を即実行継続できるように園長はフォローしていく。

施策3

カタグルマによるマネジメント研修

園長対象に事業計の作り方、人材育成の方法を学ぶ。（マネジメントスケジュールの

作成)

具体的に実現可能な施策を実現し、実行していく。

施策 4

JPTC によるフィジカル研修

毎月 1 回講師を招き実施。バランスボールを使ったフィジカルトレーニング希望参加。
学んだ事はこども達にアウトプットしていく。

施策 5

法人年齢別・部署別研修 各部署

SAKURA 保育園千川・谷在家と年齢ごとに zoom による情報交換会を行う。

地域性や園規模による差を超えてこども達の最善の利益となるノウハウを出し合い検証する。

施策 6

強みを生かしたキャリアアップの支援

大きな行事は新にプロジェクトチームを作りチームを中心に全職員を巻き込んで取り組んでいく。具体的な計画が求められる。

1 人はみんなのために みんなは一人のために職員自ら体現していく。

施策 7

強みを生かしたキャリアアップの支援

保育界のキャリアアップの研修のみならず、自分自身の強みを生かしたキャリアを目指すものには支援していく。

施策 8

コミュニケーション

SBT 研修の学びを活用してスムーズな人間関係を構築する。

報告・連絡・相談にスピード感を持って怠らない組織を作る。

③ 運営管理

施策 1

園児数の減少による収入減を意識した運営に努める。

全職員が財務の悪化を意識し、業務の効率化、働き方(残業なし)を含め効率化を目指していく。節約できるものは節約する習慣付けをする。

施策 2

子育てサークルからの入園児への流れを模索する・・・1 人でも入園につなげる。

誰でも参加しやすいシステムを構築しなおす。

広報活動を通して認知度を上げる

施策 3

運営費の減少による経費削減の強化

購入の際も安価で購入できる業者の選定をしていく。

施策 4

毎年行っている保守管理(ワックスかけ・外壁掃除)に加え、修繕箇所が見つかったら、早めの修繕に心がけ費用を最小限に抑えることができる様皆が意識していく。早め修繕を心がけ費用を最小限に抑えるように皆が意識していく。

施策 5

ナース業務

命に直結する衛生管理/安全管理の維持強化現在の最高レベルを維持していく。

園児に保健指導を実施することで身体に関心を持つように仕向ける。病児保育時児のケアの充実

施策 6

労務管理等のペーパーレス化

休暇申請・出退勤確認さらには保護者の提出書類の全てをペーパーレス化にする。職員がスマートフォンを使って申請できるようにしていく。

施策 7

補助事業

放課後児童健全育成事業 1 支援事業 病児保育事業 体調不良児対応型 延長保育事業
保育体制強化事業 保育等地域活動事業

施策 8

地域子育て支援拠点事業フォーリーブス

一時預り事業 幼稚園型・一般型

施策 9

放課後児童健全育成事業

すららを用いた学力の向上・個別最適化

天神英語の活用により天神英語の可能性をさぐる

豊富な蔵書環境を作り、読書量を増やし本すきの児童を育成する

地域子育て支援拠点事業

活動内容として、絵本の読み聞かせ、制作活動、保育体験、ママトーク（保護者同士の交流）、身体測定、親子フォト撮影など、親子で楽しめるバリエーション豊かなプログラムを実施。

来園時に次の来園予定を直接記入できる予約方法を導入し、保護者が利用予定を立てやすく、継続的に参加しやすい環境づくりを行っている。

未就園児向けイベントへの参加申し込みにつながるよう取り組んでいます。また、「次回も参加したい」と思っていただけの内容づくりを心掛け、継続して参加するリピーターの増加を目指す。

乳児等通園支援事業 こども誰でも通園制度 余裕活用型実施予定

一時預かり事業

幼稚園型一時預かり事業を実施

一般型は自主事業として実施

病児保育

体調不良児対応型として実施し、保護者のお迎えまでの間、医務室にてケアする

放課後児童健全育成事業 （別紙参照）

塾が1件も無い町をであることを鑑み、学習支援特化型の学童クラブとして地域貢献する。

年間保育日数（月ごと）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
25	23	26	26	25	23	26	23	26	23	22	26	294

年間行事予定

月	日	曜日	行事名	月	日	曜日	行事名	月	日	曜日	行事名
4	4	土	入園 進級式	8	7	金	夏祭りごっこ	12	8	火	成道会
			保護者会総会	9	16	水	秋のお彼岸		11	金	餅つき会
	8	水	花まつり	10	10	土	運動会総練習		18	金	報恩講
5	1	金	端午の節句	10	17	土	運動会	2	3	水	節分
	20	水	引渡し訓練		23	金	松組親子遠足		13	土	発表会
	21	木	降誕会	11	6	金	秋の遠足		15	月	涅槃会
6			歯科健診・内科健診		21	土	マルシェ	3	3	水	ひな祭り
7	4	土	パレット親子観劇				歯科健診 内科健診		5	金	遠足
	7	火	七夕						13	土	重要事項説明会
	31	金	お盆参り						16	火	春のお彼岸
									27	土	卒園式

年齢別クラス懇談会年 1 回実施

避難訓練・消火訓練月 1 回実施

交通安全指導 月 1 回指導

年長児：町内の保育園と交流事業 年数回実施

保健衛生・安全指導 月 1 回実施

令和 8 年度 放課後児童健全育成事業
慈光学童クラブ 事業計画

目 的

落ち着いた環境の中で放課後の安心・安全な生活の場を保障し、さらに、学習支援を行うことで児童の健全な育成を図る

学童クラブの理念

球磨郡から世界へ羽ばたく児童の育成

学童クラブの目標

- ・挨拶の徹底
- ・自主性を養う
- ・読書週間を身に着ける
- ・思いやりの気持ちを育てる
- ・いろいろな人がいることを理解する
- ・集団や公共のマナー・ルールを身につける
- ・自分思いや気持ちを表現することができるようになる。

育成方針

不易流行

- ・基礎学力の充実（プリント学習・各種検定試験）
- ・自学自習の習慣化
- ・仕のきまりの徹底
- ・PC・タブレットによる e-learning 学習「すらら」「天神英語」

学習支援

e-learning すらら（国語・算数）をメインに、読解力を養う「論理エンジン」その他のプリント学習を用い、個別最適化をめざす。

生 活

来所後、学習を終えた児童が発達段階に応じた主体的な遊びや生活が出来るようにする。タブレットは使用時間を決めて使用を許可。室内での製作活動や本に親しめるよう環境を作る。読みたい本が身近にある環境づくりに徹する。

長期休暇

- ・規則正しい生活・学習プログラム

- ・ B&G を活用したプール遊び
- ・ 館外学習
- ・ 菜園作り
- ・ 清掃活動
- ・ 夏祭り
- ・ キッズセミナー
- ・ クリスマス会
- ・ 初詣
- ・ こども園との交流活動

障害児保育

放課後等デイサービスを利用している児童の支援を行う。個々の特質に合わせながらコミュニケーション能力を高め基礎学力の向上を図る。子ども達同士、共に成長出来るように支援する。株式会社常笑と連携・協力する。

災害時対策

非常訓練実施 年 2 回
不審者訓練 年 2 回

職員研修・育成

法人職員研修・SBT 研修・MUGEN MOVIE
学童支援員資格取得

児童数・開設日数・職員体制 1 支援

支援	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
学童クラブ	7	3	1 0	4	8	5	37

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
25	23	26	26	25	23	26	23	24	23	22	26	292 日
3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	職員数

安全計画管理表・・・別紙添付

育成計画書・・・別紙添付

SAKURA 保育園竹の塚 2026 年度事業計画

社会福祉法人慈光明徳会

1. 基本情報

(1) 所在地

足立区竹の塚 1-12-11

(2) 保育理念

- ・子どもの最善の利益を追求し保障していきます。
- ・子育てと仕事の両立支援に徹します。
- ・地域の子育て支援を行います。

(3) 保育方針

乳児期は人格形成の基礎となる大切な時期であることを踏まえ、安心できる人との関係の中で愛着関係を育みながら、子ども一人ひとりの発達や生活リズムを大切にしたい保育を行う。

・子ども一人ひとりをおもひ通りに受け止め、安心できる関係の中で愛着関係を育みながら、その思いに寄り添った応答的な保育を行う。

・子ども一人ひとりをかけがえのない存在として受け止め、子どもの最善の利益を第一に考えた保育を行う。

・子どもの健やかな成長を願い、一人ひとりの健康状態や生活リズムを丁寧に把握し、きめ細やかな対応に努める。安全で衛生的な環境の中で安心して生活できる保育を行う。

・子どもが本来持っている「自ら伸びようとする力」を大切に、主体的に遊び、育とうとする意欲を育む。

・保育者は自らの感性を磨き、言葉にならない子どもの思いや欲求を、表情やしぐさ、声などから丁寧に受け止め、よく見て、よく聴き、共感的に応答することで、子どもが安心して過ごせる保育環境を整える。子どもが「楽しい」「うれしい」と感じながら、好奇心をもってのびのびと遊び込める環境づくりを行う。

・子どもの体と心の健やかな成長を支えるため、安全でおいしい手作りの給食を提供し、食を通じた豊かな経験を大切にする。

・保護者と子どもの成長や発達を共に喜び合い、家庭と連携・協力しながら子育てを支え、保育の専門性を生かした支援を行う。

・地域との関わりを大切に、地域の中で子どもが温かく見守られながら育つ環境づくりを行う。

(4) 保育目標

① 基本的な生活習慣を身につけ、情緒の安定した子どもを育てる

子どもの発達や個々のペースに寄り添いながら、食事・睡眠・排泄・清潔などの基本的な生活習慣を丁寧に身につけていく。毎日の生活の流れを大切に、安心して過ごせる環境を整えることで、子どもが落ち着いて園生活を送り、情緒の安定につながるようにする。また、保育者が温かく関わり見守る中で、子どもが自分でやろうとする気持ちを育て、生活する力の基礎を培っていく

② 愛着関係を大切にしたい応答的な保育の実践

子ども一人ひとりと安定した関係を大切に、表情やしぐさ、声などのサインを丁寧に受け止めながら、安心して過ごせる環境を整える。保育者が子どもの思いに応答的に関わることで、信頼関係を育み、情緒の安定を図る。

③ 主体的に遊び育つ保育環境の充実

子どもが本来持っている「自ら伸びようとする力」を大切に、子どもが自分から関わりたくなる環境を工夫する。好奇心や探索意欲を大切にしながら、遊びを通して心と体の健やかな成長を支える。

④ 保護者と共に育てる子育て支援の充実

保護者と子どもの成長や発達を共に喜び合いながら、日々の連携を大切にする。家庭との信頼関係を築き、子育ての悩みや不安に寄り添いながら、保育の専門性を生かした支援を行う。

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	19 名	17 名	17 名	0 名	+2 名	▲2 名
0 歳児	6 名	4 名	6 名	+2 名	0 名	+6 名
1 歳児	6 名	6 名	8 名	+2 名	▲2 名	+8 名
2 歳児	7 名	7 名	3 名	▲4 名	+4 名	+3 名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	9 名	9 名	1 名	1 名	(0 名)
保育士	6 名	6 名	1 名	1 名	(0 名)
保育補助	2 名	2 名	0 名	0 名	(0 名)
調理員（栄養士・調理師含む）	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
看護師	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)

(3) 自己評価結果

今年度の施設自己評価の実施はありませんでした

(4) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・ 基本的生活習慣を身につけ情緒の安定した子どもを育てる
- ・ 運動機能の発達を促す

振り返り・課題

前年度は、基本的生活習慣を身につけ情緒の安定した子どもを育てること、また運動機能の発達を促すことを目標に保育を行ってきた。日々の生活の中で、食事・排泄・睡眠などの基本的生活習慣を丁寧に積み重ねることで、子どもたちが安心して園生活を送れるよう関わってきた。その結果、子どもたちは落ち着いた環境の中で過ごし、情緒の安定した姿が多く見られるようになった。

また、運動機能の発達を促すため、園内で体を動かす遊びを積極的に取り入れ、ハイハイを促す活動や身体遊びなどを行った。さらに、戸外活動では公園へ出かけ、走る・歩くなど全身を使った活動を多く取り入れることで、子どもたちが楽しみながら体を動かす機会

を作ることができた。

今後も、子ども一人ひとりの発達段階に合わせて体を動かす活動を取り入れながら、基本的生活習慣の定着と情緒の安定につながる保育を継続していきたい。

② 人材育成

目標

- ・ 職員の人材育成に力を入れ法人研修・園外研修・園内研修を充実させ保育の質向上を図る
- ・ 働き方の希望を反映した勤務体制をつくり適所適材を見極め個々の職員の働き方を尊重する
- ・ 常に向上心・探究心を持ち、学ぶ姿勢を大切にする

振り返り・課題

前年度は、新しい職員も多く人材育成に力を入れた。法人研修・園外研修を計画的に実施することで、保育の質向上を図ってきた。キャリアアップ研修や外部研修への参加を積極的に促し、また園内でも研修の時間を設けることで、職員が学びを深める機会をつくることができた。研修で得た知識や気づきを日々の保育に生かそうとする姿も見られ、職員一人ひとりの意識向上につながっている。

また、職員それぞれの働き方の希望を踏まえながら勤務体制を整え、適所適材を意識した配置を行うことで、職員が安心して働ける環境づくりに努めてきた。その結果、職員同士の連携も良く、互いに助け合いながら保育を進めることができた。

一方で、研修で学んだ内容を園全体で共有し実践に結びつけていくことや、職員一人ひとりが常に向上心や探究心を持ち学び続ける姿勢をさらに高めていくことが課題である。今後は、研修の振り返りや共有の機会をより充実させ、職員同士が学び合える環境づくりを進めるとともに、個々の成長が園全体の保育の質向上につながるよう取り組んでいきたい。

③ 運営管理

目標

- ・ 国・東京都・足立区の今後の保育の動向を職員、保護者に速やかに伝えとともに知恵を出し合い地域における小規模保育事業所の役割を考えていく
- ・ 法人本部、系列園との連携をとり、人事交流、情報交換を行いながら法人の事業全体に寄与する
- ・ 保護者が安心して働けるよう衛生的で安心・安全な環境を整え開かれた保育園づくりを心がけて地域に貢献できるようにする
- ・ 園内の点検を行い保育環境を整えるべく速やかに補修する
- ・ 安全で衛生的な施設管理を行う
- ・ 職員の安定

振り返り・課題

前年度は、国・東京都・足立区の保育に関する動向について情報収集を行い、職員へ共有するとともに、必要に応じて保護者へも伝えながら園運営に反映できるよう努めてきた。また、法人本部や系列園との連携を図り、人事交流や情報交換を通して法人全体の保育の質向上に寄与できるよう取り組んできた。

保育環境については、保護者が安心して子どもを預け働けることができるよう、衛生的で安

全な環境づくりを心がけてきた。園内の設備や環境の点検を定期的に行い、不具合が見つかった際には速やかに対応することで、安全で快適な保育環境の維持に努めた。また、感染症対策や衛生管理についても職員間で共有しながら取り組むことができた。

職員体制については、日々のコミュニケーションを大切にしながら働きやすい環境づくりを心がけ、職員の安定につながるよう配慮してきた。職員同士の連携も良好で、協力しながら保育を進めることができた。

一方で、今後も保育を取り巻く環境は変化していくことが予想されるため、引き続き行政の動向を把握しながら情報共有を行い、園としての役割を考えながら柔軟に対応していく必要がある。また、施設環境の点検や安全管理を継続的にを行い、職員が安心して働き続けられる環境づくりをさらに充実させていきたい。

3. 当年度目標と施策

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・ 愛着関係を大切にした応答的保育の実践
- ・ 主体的に遊び育つ保育環境の充実
- ・ 保護者と共に育てる子育て支援の充実
- ・ 基本的生活習慣を身に着け情緒の安定した子どもを育てる
- ・ JP メソッドを意識し、運動機能の発達を促す。
- ・ 足立区保育のガイドラインに基づく保育を参考にし、応答的な保育をする。
- ・ 園児管理を全職員が確認し、振り返りをし、よりよい保育につなげていく。
- ・ 定期的にクラス会議を行いクラス間の中でも報連相を遵守する。

① 保育活動 担当別

担当	目標
0 歳児	・ 担任保育士との応答的保育により情緒の安定を図り、基本的信頼関係（愛着関係）の土台作りを行う。 ・ 運動ができる環境を整え、一人一人の発達段階に応じた粗大運動を積極的に取り入れ、運動能力を引き出していく。又、五感を十分に働かせることができる人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していく。JP メソッド「ころがる・しがみつく・ホッピング」を定期的にとり入れる。 ・ 保健的で安全な環境を整え一人一人の生活リズムを大切にし、食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求を満たす ・ 特定の保育者との親密な関わりを通して欲求を満たし安定した信頼関係を築く ・ 自然や身の回りの生活用品、玩具などを見たり、触ったり、聞いたりできる豊かな環境の中で感覚や運動的な遊びを楽しむ
1 歳児	・ 基本的生活習慣への確立に向けて援助する。 ・ 自我の芽生えの時期のため自分でやりたい気持ちを大切に受けとめ、「待つ保育」に徹することで主体性の芽生えを育む。 ・ 歩行が安定し、安全で活動しやすい環境の中で自分なりに活動範囲を広げる。散歩・サーキット運動・戸外遊び等自ら環境とかわる経験の中で運動能力を高めていく。又、五感を十分に働かせることができる人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していく。JP メソッド

	「ころがる・しがみつく・ホッピング」を定期的にとりいれる。 ・保育者と関わる中で徐々に言葉を覚え欲求や自分の気持ちを簡単な言葉で伝えようとする
2 歳児	・目の前にある環境に興味関心をもって自ら関わろうとする好奇心全開のエネルギーを最大限に受け止め、五感をとおして主体的にかかわることのできる環境を整えていく。かけっこ・戸外遊び・運動遊びをとおして運動能力を高める。・遊具や固定遊具を使い運動遊びを通して体幹を鍛える。 ・文字・英語への関心も促していく。定期的にひらがなにふれたり、英語にふれる機会を作る。 ・ブロック遊びを通して空間認識を高める。 ・リトミックを通して犬・くま・へび歩き、かえるジャンプなどを行い、楽しんで体操にふれる。JP メソッド「ころがる・しがみつく・ホッピング」を定期的にとりいれる ・保育者に見守られ簡単な身の回りのことを自分でできるようにする ・生活の中で物の名前や数、色、形などを理解して言葉で伝えたり保育者や友だちと言葉のやり取りを楽しむ

② 人材育成

- ・報連相を遵守し、情報を全員共有できるようにする。
- ・慈光メソッド・クレドを遵守した保育ができるようになる。
- ・本気の子育て応援隊として保護者に寄り添った対応ができるようになる。
- ・研修の機会を多く提供し職員全体が成長できるようにする。
- ・子ども一人ひとりの発達や思いに寄り添った保育を実践するため、職員の専門性の向上に努める。
- ・日々の保育を振り返りながら学び合う機会を大切にし、保育の質の向上を図る。

③ 運営管理

- ・クレドを遵守した職員の安心安全な職場環境づくりをする
- ・すくわくプログラムを行い補助金を利用し、よりよい保育ができるようにする
- ・園児の集客に向け、広報活動を強化する
- ・地域の中で子どもが健やかに育つ環境を大切にし、地域との関わりを通して豊かな経験ができるよう取り組む。また、地域の子育て家庭に寄り添いながら、子育て支援の充実に努める。

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

0. 1. 2 歳児

① 愛着関係を育む応答的保育

- ・子どもの表情やしぐさ、発声などのサインを丁寧に受け止め、思いに寄り添った関わりを大切にする。
- ・抱っこや語りかけ、スキンシップを通して、安心して過ごせる関係づくりを行う。
- ・一人ひとりの生活リズムや発達に応じた個別的な対応を行い、情緒の安定を図る。

② 主体的な遊びを支える保育環境

- ・子どもが自ら関わりたくなる遊びや環境を工夫し、探索活動や遊びを十分に楽しめるようにする。
- ・戸外遊びや散歩を通して自然に触れ、体を動かす楽しさを感じられる機会を大切にす

る。

- ・保育者は子どもの興味や関心を丁寧に見取りながら、遊びの広がりを支える関わりを行う。

③ 健康・安全を大切に生活

- ・一人ひとりの健康状態を把握し、日々の体調変化に十分配慮する。
- ・清潔で安全な保育環境を整え、事故防止に努める。
- ・生活習慣の基礎となる「食事・睡眠・排泄」のリズムを大切に生活を行う。

④ 食を通じた豊かな経験（食育）

- ・安全でおいしい手作りの給食を提供し、子どもが楽しく食事をする経験を大切にする。
- ・食材や味、香りなどに触れる経験を通して、食への関心を育む。
- ・一人ひとりの発達や体調に配慮した食事援助を行う。

⑤ 保護者との連携・子育て支援

- ・日々の連絡や送迎時の対話を大切にし、子どもの様子や成長を丁寧に伝える。
- ・家庭と保育所が連携しながら、子どもの発達を共に見守る。
- ・保護者の子育ての悩みや不安に寄り添い、安心して子育てができるよう支援する。

施策2

- ・足立区保育のガイドライン・業務マニュアルを遵守し、保育指針に基づいた基本の保育を行っていく

施策3

0歳児

① 愛着形成

担任との応答的保育により情緒の安定を図り、基本的信頼関係の土台作りを行う。

② 運動能力の向上

運動ができる環境を整え、一人ひとりの発達段階に応じた粗大運動を積極的にとり入れる。バランスボールを取り入れ身体づくりを行っていく。JPメソッド「ころがる・しがみつく・ホッピング」を毎日とり入れる。

③ 五感の成長

五感を充分働かせることが出来る人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していく。

月齢があがってきたら定期的にクレヨンでなぐり書きの時間を作る。

施策4

1歳児

① 基本的生活習慣の確立に向けての援助

自我の芽生えの時期なので、自分でやりたい気持ちを大切に受け止め、「待つ」保育に徹することで主体性の芽生えを育てていく。

② 運動能力を高める

散歩・サーキット運動・走ることを通して運動能力を高めていく。バランスボールを取り入れ身体づくりを行っていく。JPメソッド「ころがる・しがみつく・ホッピング」を定期的にとり入れる。爬虫類の動きをいれたリトミックをとり入れる。

③ 五感の成長

五感を充分働かせることが出来る人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促して

いく。
定期的にクレヨンでなぐり書きの時間を作る。

施策5

2歳児

① 色々なことに主体的に関わろうとすることへの援助

目の前にある環境に興味関心をもって自ら関わろうとする好奇心全開のエネルギーを最大限に受け止め、五感をとおして主体的にかかわることのできる環境を整えていく。

② 運動能力を高める。

かけっこ・戸外遊び・運動遊びをとおして運動能力を高める。また、リトミックにて犬・くま・へび歩き、かえるジャンプなどを行い、楽しんで体操にふれる。JPメソッド「ころがる・しがみつく・ホッピング」を定期的にとりいれる。

③ 文字・英語への関心を促す。

フラッシュカード・絵本を通して文字への関心を促していく。定期的にクレヨンでなぐり書きの時間を作る。定期的に音楽・ダンス・歌などによる英語に触れる環境をつくっていく。

② 人材育成

施策1

・保育中にあった怪我・伝えたほうがよい子どもの姿・難しい保護者対応などは全て上司・クラス内で報連相をする。また園児管理システムを使い全員が把握できるようにしていく

施策2

慈光メソッドやクレドを遵守した保育ができるよう研修・会議をしていく。

施策3

本気の子育て応援隊として保護者に寄り添っていけるよう、職員会議を利用して保護者対応の研修をする。

施策4

キャリアアップ研修や内部研修、足立区の研修など研修の機会を多くしていく

施策5

人材育成ツール・カタグルマを活用し人材育成を行っていく。

③ 運営管理

施策1

クレドを遵守した職員の安心安全な職場環境づくりをする。そのために、以下を遵守した組織づくりをしていく。

- ・報告・相談・連絡を怠らない、スピード感をもって行う組織づくり
- ・就業中の私語は禁止をする。私語は休憩中に行う。
- ・職員同士も礼をわきまえた正しい言葉使いをする

施策2

すくわくプログラムを行い、よりよい保育の為に東京都に150万の申請を出す

施策3

月に1度はお話し会など子育て支援を行う。インスタで定期的に保育の動画をあげたり、保護者に役立つ情報をあげたりと内容を充実させ園のアピールをする。

施策 4

働きやすい職場づくりを目指し離職をなくす。

年間保育日数（月ごと）

4月...25日 5月...23日 6月...26日 7月...26日 8月...25日 9月...23日
10月...26日 11月...23日 12月...24日 1月...23日 2月...22日
3月...26日 合計年間292日

年間利用者数（月ごと）推定

4月...19人 5月...20人 6月...20人 7月...20人 8月...20人 9月...20人 10月...20人
11月...20人 12月...20人
1月...20人 2月...20人 3月...20人

職員数の推移（月ごと）推定

4月...9人 5月...9人 6月...9人 7月...9人 8月...9人 9月...9人 10月...9人
11月...9人 12月...9人 1月...9人
2月...9人 3月...9人

年間行事予定

4月 入園式・進級式・身体測定・地震火災訓練 5月 こどもの日の会・身体測定・地震火災訓練
6月 ミニ遠足・身体測定・地震火災訓練 7月 七夕・身体測定・地震火災訓練
8月 夏祭り・水遊び・身体測定・地震火災訓練 9月 身体測定・地震火災訓練
10月 運動会ごっこ・ハロウィン・身体測定・地震火災訓練 11月 乳児健診・身体測定・地震火災訓練
12月 クリスマス会・身体測定・地震火災訓練 1月お正月・身体測定・地震火災訓練
2月節分・身体測定・地震火災訓練 3月 ひな祭り・お別れ会・身体測定・地震火災訓練

SAKURA 保育園西新井 2026 年度事業計画

社会福祉法人慈光明徳会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都足立区関原 3-43-4 細川ビル 1 階

(2) 保育理念

- ・子どもの最善の利益を追求し保障していきます。
- ・子育てと仕事の両立支援に徹します。
- ・地域の子育て支援を行います。

(3) 保育方針

- ・子ども一人一人をあるがままに受け止め、子どもの心に寄り添い応答的保育に努めます。
- ・子どもの健やかな成長を願い、一人一人の健康状態を把握し、きめ細やかに対応します。
- ・子どもが本来持っている「自ら伸びようとする力」を信頼し、意欲を育てます。
- ・自らの感性を豊かにみがき、子どもの内的な声をよく見て、よく聴き、共感します。
- ・子どもが楽しかった、嬉しかったと思えるような、好奇心いっぱいに遊びたい環境を工夫します。
- ・体と心の栄養になるよう、安全でおいしい手作りの給食を作ります。
- ・保護者と共に子どもの成長や発達を喜び合い、協力して子育てを支え、保育の専門性を活かし、その援助に当たるようにします。

(4) 保育目標

基本的な生活習慣を身に付け、情緒の安定した子どもを育てる。

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	18 名	17 名	0 名	▲17 名	+18 名	▲16 名
0 歳児	5 名	4 名	0 名	▲4 名	+5 名	0 名
1 歳児	5 名	5 名	0 名	▲5 名	+5 名	0 名
2 歳児	8 名	8 名	0 名	▲8 名	+8 名	0 名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	9 名	9 名	0 名	0 名	(0 名)
保育士	4 名	4 名	0 名	0 名	(0 名)
保育補助	3 名	3 名	0 名	0 名	(0 名)
調理員（栄養士・調理師含む）	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)

看護師	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
-----	-----	-----	-----	-----	-------

(3) 自己評価結果

施設自己評価実施時期：2026 年 03 月

自己評価結果 スコアランキング(大項目ごと)

ランク	項目	スコア	優先度
1	1. 基本的理念と社会的責任	4.00	高
2	2. 保育の配慮事項	4.00	中
3	3. 計画・評価・育ちの見通し	4.00	低
4	4. 特別支援・障がい児保育	4.00	中
5	5. 乳児保育のねらいと内容	4.00	中
6	6. 1～3 歳未満のねらいと内容	4.00	中
7	7. 3 歳以上児のねらいと内容	4.00	中
8	8. 健康支援	4.00	中
9	9. 食育の推進	4.00	低
10	10. 安全管理	4.00	高
11	11. 環境・衛生管理	4.00	中
12	12. 災害対策	4.00	高
13	13. 家庭との連携（在園児）	4.00	中
14	14. 家庭との連携（地域）	4.00	低
15	15. 職員の資質向上	4.00	低

振り返り・課題

- ・食育は 2 歳児を中心に行い、0 歳児と 1 歳児も毎月ではなかったが参加できるものと考えてもらい行えたので良かった。
- ・今年度は離職者がいなかったなので、来年度も今の職員で固めていく。

(4) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・子どもたちが情緒の安定過ごせるよう、しっかり子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、物的、人的環境を整えていきます。
- ・四季折々の自然を五感で感じる、育てる。（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）
- ・ECC のパパッと英語を引き続き取り入れ、英語の歌やリトミック体操を通して楽しく英語に触れ、発達段階に応じた保育を目指します。
- ・個々の発達段階、家庭環境に合わせ LSJ 梅田と専門的指導の共有を図り、安全の確保と健全な発達のため見守り配慮していきます。

振り返り・課題

- ・今年度は9月からLSJ梅田11月からLSJ梅島に2歳児1名がお世話になり共有しながら見守り保育をしていった。
- ・玩具など多く購入出来たので色々なものや自然の中で五感を育てることができた。
- ・EOCは夕方毎日行い、リトミックはできるだけ多く取り入れていった。
- ・新入園児はできるだけ担任と1対1で関わり安心感が持てるようにシフトを調整していった。

② 人材育成

目標

- ・職員各々の園外研修・園内研修を充実させて、保育士としての責任感を持ち、実践的な保育の質の向上を図り、自身のスキルアップを元に、子どもの成長発達に寄与していきます。

振り返り・課題

今年度は退職者がいなかったため、園外研修にもしっかり参加できた。
研修の報告はカタグルマへ入力してもらい職員間で共有できたので、良かったと思うことは西新井でもやっていきたいと思う。

③ 運営管理

目標

- ・子育て応援隊として保護者の子育てと仕事の両立を支援していくために標準時間、土曜保育に対応し、子どもの最善の利益の追求と保障、子育てと仕事の両立支援に徹します。
- ・保護者がより一層安心して働けるように細やかな心配りを欠かさず、又、子ども達の楽しく過ごしている状況が保護者に伝わるように園便り、HP、Instagramを充実させます。
- ・定員割れを解消する。
- ・慈光こども園、SAKURA保育園千川、SAKURA保育園谷在家、LSJ竹ノ塚、LSJ梅田、LSJ谷在家、SAKURA保育園竹ノ塚、SAKURA保育園綾瀬との連携を取り、人事交流、情報交換を行いながら、法人の持つノウハウを教えて頂き、法人の行う事業全体に寄与することを目指します。

振り返り・課題

- ・今年度は、0歳児が4月0人のスタートだったので、Instagramは毎日投稿し、園児募集や毎月の読み聞かせ会の情報も投稿した。
- ・Instagramなど毎日投稿したので次年度の入園に繋がったので良かった。
- ・LSJ梅田やLSJ梅島と情報を共有して専門的なことなど教えていただいたので、次年度も気になる園児がいたらLSJに相談しいろいろ教えてもらう。

3. 当年度目標と施策

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・子どもたちが情緒の安定した時間を過ごせるよう、しっかり子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、物的、人的環境を整えていきます。

- ・四季折々の自然を五感で感じる、育てる。（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）
- ・ECCのパパッと英語を引き続き取り入れ、英語の歌やリトミック体操を通して楽しく英語に触れ、発達段階に応じた保育を目指します。
- ・個々の発達段階、家庭環境に合わせLSJ 梅田と専門的指導の共有を図り、安全の確保と健全な発達のため見守り配慮していきます。

① 保育活動 担当別

担当	目標
0 歳児	・安全・安心な環境の中で一人ひとりの、子どもの生活リズムを大切にし、心地よく過ごせるようにする。 ・保育者が優しく語りかけ、ふれあいを大切にしながら信頼関係を育み情緒の安定を図る。 ・見る、聞く、触れるなどを通じて、身の回りに対する興味や好奇心が芽生え、遊ぶ楽しさや喜びを知る。
1 歳児	・まだ甘えたい年齢なので、保育者に快く世話をしてもらいながら、自分でやろうとする気持ちが芽生える。 ・歩行が安定し、安全で活動しやすい環境整備の中で、自分なりの活動範囲を広げる。 ・自分の好きな遊びや玩具を見つけ一人遊びを楽しむ。また、お友だちや保育者の真似をして喜ぶ。
2 歳児	・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことをできるようになる。 ・生活の中で身の回りのものの名前や簡単な数、形、色がわかり、言葉のやり取り楽しむ。 ・保育者やお友だちとの関わりの中で、想像を広げながら遊ぶ楽しさを味わう。

② 人材育成

- ・今年度同様、園内外の研修にできるだけ参加できるように皆で協力し保育者としての責任感を持ち、自身のスキルアップをもとに、子どもの成長発達に寄与していきます。

③ 運営管理

- ・子育て応援隊として保護者の子育てと仕事の両立を支援していくために急な土曜保育にも対応し子どもの最善の利益追求と保障、子育てと仕事の両立支援に徹します。
- ・保護者がより一層安心して働けるように細やかな心配りを欠かさず、又、子どもたちの楽しく過ごしている状況が保護者に伝わるように園だより、HP、インスタグラムを充実させます。
- ・慈光こども園、SAKURA 保育園千川、SAKURA 保育園谷在家、LSJ 竹ノ塚、LSJ 梅田、LSJ 梅島、LSJ 谷在家、SAKURA 保育園竹ノ塚、SAKURA 保育園綾瀬との連携を取り人事交流、情報交換を行いながら「固める」西新井園にします。

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

- ・こども達一人ひとりとしっかり関わって信頼関係を育む。

施策 2

- ・四季折々の色の変化や音、葉っぱなどの感触や花の匂いを毎日のお散歩の中で感じられる経験を増やしてあげる。

施策3

- ・パパッと英語（ECC）や体を動かすリトミック体操を通じて楽しく英語に触れ、発達段階に応じた保育を目指します。

② 人材育成

施策1

- ・専門リーダーの自覚を持ち、個々の能力を発揮し、研修で学んだことなど保育に生かしてもらう。

施策2

- ・報告、連絡、相談は必須。職員同士が何でも言い合える環境を作りコミュニケーションを取りながらも何か問題が起きる前に話し合い何か起きてしまったときも直ぐに話し合っ

て解決していく。

施策3

- ・年に数回法人クレドを職員会議で読み合わせ確認する。
- ・面談の機会を頻繁にとる。（1 on 1）

施策4

- ・職員は子どもたちのお手本になるような行動や言葉遣いをする。
- ・職員同士でも礼をわきまえた正しい言葉遣いをする。

③ 運営管理

施策1

- ・開かれた保育園を目指し、地域との関わりを積極的に持つように務める。

施策2

- ・園のHPやInstagramを活用し地域の方々に保育園を知ってもらう。また、子育て応援隊として、保護者の方に喜んでいただけるよう最善を尽くします。

施策3

- ・昨年同様、離職者を出さないように職員を固めます。

年間保育日数（月ごと）

- ・月ごと

4月…25日 5月…23日 6月…26日 7月…26日 8月…25日 9月…23日
10月…26日 11月…23日 12月…24日 1月…23日 2月…22日 3月…26日

年間利用者数（月ごと）推定

- ・年間利用者数（月ごと）推定

4月…17名 5月…18名 6月…18名 7月…18名 8月…18名 9月…18名 10月…18
名 11月…18名 12月…18名
1月…18名 2月…18名 3月…18名

職員数の推移（月ごと）推定

- ・職員数（月ごと）推定

4月…9名 5月…9名 6月…9名 7月…9名 8月…9名 9月…9名 10月…9名 11

月…9名 12月…9名
1月…9名 2月…9名 3月…9名

年間行事予定

年間行事

- 4月入園の会・進級式
- 5月子どもの日の会・親子遠足
- 6月乳児健診・水遊び開始
- 7月七夕の
- 8月夏まつり
- 9月保育参加
- 10月ハロウィンパーティー
- 11月引き取り訓練・個人面談
- 12月クリスマス会
- 1月お正月遊び
- 2月節分の会
- 3月卒園式・懇談会（新年度1.2歳児）

月例行事

- 誕生会・身体測定・避難訓練・引き取り訓練（年1回）・不審者訓練（年1回）
- 水害訓練（年1回）・消火器訓練（年2回）

SAKUAR 保育園綾瀬 2026 年度事業計画

社会福祉法人慈光明徳会

1. 基本情報

(1) 所在地

足立区綾瀬 4－6－5

(2) 保育理念

- ・子どもの最善の利益を追求し保障していきます。
- ・子育てと仕事の両立支援に徹します。
- ・地域の子育て支援を行います。

(3) 保育方針

- ・子ども一人一人をあるがまま受け止め、子どもの心に寄り添い応答的保育に努めます。
- ・子どもの健やかな成長を願い、一人一人の健康状態を把握し、きめ細やかに対応します。
- ・自らの感性を豊かにみがき、子どもの内的な声をよく、よく聴き、共感します。
- ・子どもが楽しかった、嬉しかったと思えるような、好奇心いっぱいに遊びたい環境を工夫します。
- ・体と心の栄養になるよう、安全でおいしい手作りの給食を作ります。
- ・保護者と共に子どもの成長や発達を喜び合い、協力して子育てを支え、保育の専門性を活かし、その援助にあたるようにします。

(4) 保育目標

- ・基本的生活習慣を身につけ、情緒の安定した子どもを育てる。

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	19 名	13 名	19 名	+6 名	0 名	+1 名
0 歳児	6 名	2 名	6 名	+4 名	0 名	+6 名
1 歳児	7 名	5 名	8 名	+3 名	▲1 名	+8 名
2 歳児	6 名	6 名	5 名	▲1 名	+1 名	+5 名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	7 名	6 名	1 名	0 名	(0 名)
保育士	6 名	5 名	1 名	0 名	(0 名)
保育補助	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
調理員（栄養士・調理師含む）	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
看護師	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)

(3) 自己評価結果

施設自己評価実施時期：2026 年 03 月

自己評価結果 スコアランキング(大項目ごと)

ランク	項目	スコア	優先度
1	1. 基本的理念と社会的責任	4.00	高
2	2. 保育の配慮事項	4.00	中
3	3. 計画・評価・育ちの見通し	4.00	低
4	5. 乳児保育のねらいと内容	4.00	中
5	6. 1～3歳未満のねらいと内容	4.00	中
6	7. 3歳以上児のねらいと内容	4.00	中
7	8. 健康支援	4.00	中
8	10. 安全管理	4.00	高
9	11. 環境・衛生管理	4.00	中
10	12. 災害対策	4.00	高
11	13. 家庭との連携（在園児）	4.00	中
12	15. 職員の資質向上	4.00	低
13	9. 食育の推進	3.80	低
14	4. 特別支援・障がい児保育	3.50	中
15	14. 家庭との連携（地域）	3.33	低

振り返り・課題

- ・子どもの成長に合わせた活動計画を全職員で共有し活動することができた、引き続き園児管理、ルクミー等のシステムを使用ししっかり周知していく。
- ・職員のやりがいのある職場環境を整え固めていく。

(4) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・子どもたちが情緒の安定した時間を過ごせるよう、しっかり子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、物的・人的環境を整えていく。
- ・保護者がより一層安心して働けるように細やかな心配りを欠かさず、また、子どもたちの楽しく過ごしている状況が保護者に伝わるように（海外の方々にもわかりやすく丁寧な説明をしていく）園だより、SNS、HP を充実させる。

振り返り・課題

- ・個々の子どもの成長に合わせた活動を取り入れ、子どもたちが自ら興味を持ち楽しめるよう計画を立てた。不安そうにしている子には寄り添いながら援助することで自信へとつながることが出来た。
- ・月1回のソダツラボ（英語リトミック）では子どもたちから簡単な英語を使う姿が多く見られるようになった。途中講師の先生が変わり不安そうな子どももいたが職員が寄り添うことで慣れることが出来た。
- ・クラス関係なくどの職員とも触れ合うことを大切にして、常に笑顔で活動できるよう環

境を整えた。他の園からのお手伝いの職員とも笑顔で楽しむことができて良かった。

- ・保護者には登園、降園の時や SNS で子どもたちの様子、活動内容を細かく伝え理解して頂いた。さらに SNS を充実させていきたい。

② 人材育成

目標

- ・職員の育成に力を入れ、園内研修・園外研修・法人研修・小規模年齢別ミーティングを充実させて職員の質を図り、子どもの成長、発達に寄与していく。
- ・職員の得意を取り入れ、スキルアップできる環境を整えていく。

振り返り・課題

- ・職員の急な病気治療のため職員不足になり、園外の研修を受講することが難しかった。園内研修は参加し学びを深めることが出来た。
- ・職員の採用に力を入れたが、なかなか採用に繋がらなかった。西新井と谷在家の職員がお手伝いに入って頂くことで職員の指定休、有給を取ることが出来た。
- ・厳しい環境の中であつたが子どもたちの活動には大きな影響はなく進めることが出来た。職員の「やってみたい」が制限されてしまったことは残念だったその気持ちは次年度に繋げていきたい。

③ 運営管理

目標

- ・法人本部、支部、他の園との連携を取り、人事交流、情報交換を行いながら、法人の持つノウハウを教えて頂き、法人の行う事業全体に寄与することを目指す。
- ・安全確保と健全な発達のため見守りを配慮していく。

振り返り・課題

- ・定員数の変更を行い園児の確保ができた。今後も柔軟に対応していく。
- ・職員不足のため8月から他の園（西新井・谷在家）から、お手伝いに来て頂いたことにより職員一同感謝し有給等の休みを取ることが出来た。またお互いの園の情報交換等もでき参考になることが多くあった。
- ・常に設備の点検を行い調子の悪い場所に対しては本部に相談して対応していった。エアコンの調子が悪く破損していないが効きが悪い、隙間風が多いため温度管理が難しい状況であるがパック椅子を置いて風を防ぐ等の工夫を引き続き行っていく。
- ・園長会議では情報交換や課題等話し合い相談する事ができた。
- ・室内、玩具の衛生管理を徹底したことで感染症の予防に繋げることができた。

3. 当年度目標と施策

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・子どもたちが情緒の安定した時間を過ごせるようしっかり子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、物的・人的環境を整えていく。
- ・子どもたちの運動機能の発達促す活動を取り入れる。
- ・保護者がより一層安心して働けるようにこまやかな心配りを欠かさず、また、子どもたちの楽しく過ごしている状況が伝わるように、（海外の方にもわかりやすくていねいな説明をしていく）園だより、SNS、HP を充実させる。

① 保育活動 担当別

担当	目標
0 歳児	・ 一人ひとりの発達・発育状況に応じて離乳や歩行の完成を目指す。 ・ 一人ひとりの子どもの生活リズムを安定させ、安全で清潔な環境の中心地よく過ごせるようにする。
1 歳児	・ 自分でやろうとする気持ちの芽生えを援助されながら基本的習慣を身につける。 ・ 遊びの中で自分の思いを動作や片言で表現し、友だちへの関心を示す。
2 歳児	・ 保育者との安定した関わりの中で、基本的な生活習慣を身につける。 ・ いろいろな経験を通して、自分の思いや要求を言葉で表現する。また、運動遊びを通して運動機能をはかる。

② 人材育成

- ・ 職員の育成に力を入れ、園内研修・園外研修・法人研修・小規模年齢別ミーティングを充実させて職員の質を図り、子どもの成長、発達に寄与していく。
- ・ 職員の得意を取り入れ、スキルアップできる環境を整えていく。

③ 運営管理

- ・ 法人本部、支部、他の園との連携を取り、人事交流、情報交換を行いながら、法人の持つ、ノウハウを教えて頂き、法人の行う事業全体に寄与することを目指す。
- ・ 安全確保と健全な発達のため見守り、配慮していく。
- ・ 定員割れを解消する。
- ・ システム化をしっかりと周知しエラーのないようにしていく。

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

- ・ <季節の行事>…子どもたちの成長に合わせ無理のない活動を取り入れていく。
入園式・クリスマス会・お別れの会は保護者参加とするが他になつまつり、お店屋さんごっこ等も保護者参加を考えている。

施策 2

- ・ <月例行事>…誕生会では大きくなったことを喜び、お祝いする気持ちを育む。
避難訓練では子どもたちが慌てないように毎月頭巾を被ることを伝えていく。

施策 3

- ・ <ソダツラボ>…外部の講師による英語リトミックではネイティブな英語に触れ興味を持ち普段の生活の中に取り入れていく。
- ・ <赤ちゃん体操>…成長に合わせ脳の感覚情報を意識した活動を取り入れる。

施策 4

- ・ <食育>…野菜の苗を育て季節の野菜に触れる。
身近な食材を使用しておにぎり作り、とうもろこしの皮むき、うどん作り等の体験を楽しむ。

② 人材育成

施策 1

- ・ 法人研修、園外研修、園内研修等で学び、更なる保育の質を高め、自分の得意としている分野を保育に生かしていく。

施策 2

- ・ 職員同士が意見を言える環境を整えると共にコミュニケーションをしっかりとっていく。

施策 3

- ・ 法人理念・クレド・**慈光メソッド**を確認し理解する。

③ 運営管理

施策 1

- ・ <安全管理>…非常災害時の訓練、施設の点検等の徹底。
- ・ <衛生管理>…感染予防を徹底し、安心の環境設定を心がける。

施策 2

- ・ <事務関係>…社会福祉法人会計基準を遵守し、適正な会計事務を行う。
その他の運営費の請求時事務等、施設運営の関しては、
本部との連携の もと行う。
園児管理システム、スマイル、カタグルマ、**ジンジャーの勤怠管理**を
活用しペーパーレス化を進める。

施策 3

- ・ <園児獲得>…園で取り組んでいる活動の様子を SNS, ホームページ等で発信していく。
園見学では丁寧な対応をしていく。
近隣への挨拶（散歩時）の徹底。

施策 4

- ・ <職員の安定>…職員が安心して働ける環境を整えていく。

年間保育日数（月ごと）

- ・ 月ごと

4月…25日 5月…23日 6月…26日 7月…26日 8月…25日 9月23日
10月…26日 11月…23日 12月…24日 1月…23日 2月…22日 3月…26日

年間利用者数（月ごと）推定

- ・ 年間利用者数（月ごと）推定

4月…14名 5月…19名 6月…19名 7月…19名 8月…19名 9月…19名
10月…19名 11月…19名 12月…19名 1月…19名 2月…19名 3月…19名

職員数の推移（月ごと）推定

- ・ 月ごと

4月…8名 5月…8名 6月…8名 7月…8名 9月…8名
10月…8名 11月…8名 12月…8名 1月…8名 2月…8名 3月…8名

年間行事予定

行事

- 4 月 入園式・進級式 保護者会
- 5 月 子どもの日の集い ミニ遠足
- 6 月 春の乳児健診
- 7 月 水遊び セタの会 個人面談
- 8 月 夏祭り
- 9 月 お月見の会
- 10 月 運動会ごっこ ハロウィンごっこ 秋の乳児健診
- 11 月 お店屋さんごっこ
- 12 月 クリスマス会 懇談会
- 1 月 お正月遊び
- 2 月 節分の会
- 3 月 ひな祭り会 お別れ遠足 お別れの会

月例行事

- ・身体測定 誕生会 避難訓練
- ・引き取り訓練 不審者訓練 水害訓練 (年1回)

SAKURA 保育園千川 2026 年度事業計画

社会福祉法人慈光明徳会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都豊島区千川 2-30-2

(2) 保育理念

- ・子どもの最善の利益の追求と保障
- ・子育てと仕事の両立支援
- ・地域の子育て支援

↓

子どもたちと保護者の皆様の幸せを願い、本気の子育て応援隊として精進します

(3) 保育方針

『教育・保育要領』『保育所保育指針』を遵守し、以下のメソッド（一人一人の個性・特性に寄り添った慈光メソッド）に基づいて教育・保育を行います。

教育・保育を科学します

脳科学による適時性の教育・保育

スポーツ理論 JP メソッドに基づく身体能力の向上

身体の中から生きる力を育む食育

自然や日常生活を通した五感教育

躰教育

上記のプログラムを通し、認知能力・認知能力を応用する力・非認知能力を育み、以下 10 項目を卒園までに育みます。

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活とのかかわり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然とのかかわり・生命尊重
- ⑧数量・図形・文字等への関心・感覚
- ⑨ことばによる伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

(4) 保育目標

世のため人の為に生きようとする日本を支える人財になってほしい。

そのために、自立した誇りある日本人としての土台を徳・知・体を通して育みます。

↓

たくましく生き抜く力を育みます

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	66 名	66 名	66 名	0 名	0 名	+4 名
0 歳児	6 名	6 名	6 名	0 名	0 名	+6 名

1 歳児	12 名	12 名	12 名	0 名	0 名	+12 名
2 歳児	12 名	12 名	12 名	0 名	0 名	+12 名
3 歳児	12 名	12 名	12 名	0 名	0 名	+12 名
4 歳児	12 名	12 名	12 名	0 名	0 名	+12 名
5 歳児	12 名	12 名	12 名	0 名	0 名	+12 名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	25 名	25 名	2 名	2 名	(0 名)
園長	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
保育士	16 名	15 名	1 名	0 名	(0 名)
保育補助	5 名	6 名	1 名	2 名	(0 名)
栄養士	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
看護師	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
事務員	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)

(3) 自己評価結果

今年度の施設自己評価の実施はありませんでした

(4) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

「自ら育つ力を引き出す保育」をテーマに掲げ、時代の変化に対応した新しい学びの機会を提供する。

- ・ JP メソッドを軸とした体の力の向上
- ・ 絵本やプリントなどの文字から育まれる学びの力の向上
- ・ 什のきまりを通して育まれる心の力の向上

振り返り・課題

・ 体操専任保育士が中心となりながら、各クラス担任と連携を密に取ることでクラスの課題や個人の課題に着目しながら体操指導を行い、体の力の向上に繋がった。JP メソッドを通して体を動かすことの楽しさを感じながら主体的に運動に取り組む姿も見られた。また看護師、栄養士も積極的に保育に関わりながら保健指導、食育指導を実施することで体の内面に対するアプローチも積極的に取り入れることができた。

・ 例年通り、幼児クラスでは石井式漢字絵本やプリントキッズなどを活用し、文字の読み書きに対する興味関心を高める取り組みを行った。乳児クラスにおいても殴り書きやシール貼り、様々な感触遊びを通して指先の間隔を育み、幼児クラスで取り組むカリキュラムへの土台作りを行うことができた。

絵本などの充実におり、子どもたちが文字や言葉に親しみながら主体的に取り組む姿も多く見られた。

・ 幼児クラスでは朝の会において「什のきまり」の唱和を行い、園生活の中で大切にしたい姿勢や行動について子どもたちと確認する機会を設けた。また、毎週その中から一つを取り上げ、特に意識して取り組む一週間とすることで、保育園の軸となる「什のきまり」を子どもたちと共有しながら実践してきた。

一方で、「よい姿勢で座ります」という項目については十分に浸透しているとは言えず、崩れた姿勢で座る姿も多く見られた。また「仕のきまり」には含まれていないものの、返事の大切さについても課題が見られたことから、まずは職員自身が日々の保育を振り返り、子どもたちの手本となる姿勢を示していく必要があると感じられた。

② 人材育成

目標

クレドを遵守した職員の安心安全な職場環境づくりを行う。

- ・本気の子育て応援隊としての覚悟・志を持つ
- ・報告・相談・連絡をスピード感を持って行い、怠らない組織づくり
- ・就業中の私語は禁止・職員同士も礼をわきまえた正しい言葉遣いをする

振り返り・課題

- ・例年通り階層別に分かれた法人研修をはじめ、慈光メソッドやクレドの冊子配布、主体性について学ぶ機会もあり、より一層法人やカリキュラム、慈光メソッドへの理解や解像度が深まった一年となった。
- ・日々の保育の中で先輩職員が後輩職員への助言やフォローを行う場面も多くみられ、OJTを通じた人材育成が自然と行われる環境が育ってきた。保育内容や子どもへの関わり方について職員同士で意見交換する姿も増え、園全体で学び合う風土が少しずつ形成されている。一方で十分な振り返りの時間が確保できない場面も多々あり、来年度は学びを共有できる機会をより意識的に設けていく必要がある。
- ・SNSの更新や危機管理等、職員が率先して改善点を発信するといった姿も見られたことから、SAKURA 保育園千川の職員としての意識の高さを感じる。
- ・一方で報告、連絡、相談の面ではケガの報告や保護者伝達事項など、十分に連携をとれていないこともあり、来年度も引き続き意識の強化、仕組みづくりが必要とされる。

③ 運営管理

目標

法人理念を具現化し、持続可能な園運営を推進する。

- ・信頼と質の向上を目指した運営
- ・人事管理と職員の働きやすさの向上
- ・施設・環境管理の強化

振り返り・課題

- ・定期的な安全管理をはじめ、消防署指導の消火訓練や AED 訓練、警察署指導の不審者訓練など外部の自治体と連携しより密度の高い取り組みを実施することができた。助言事項はすぐに職員共有し、次の避難訓練から各自で意識できるようになったためその効果の高さを実感した。
- ・感染症対策として手洗いの指導などを行った。インフルエンザや胃腸炎などの感染症が流行した時には異年齢児との交流を避け、保護者周知により早めのお迎えをお願いするなど感染症拡大防止に努めることができた。
- ・園児が充足したことにより SAKURA 保育園千川のブランド力を高めていけるよう SNS の更新、未就園児イベントの定期開催、近隣施設との交流を積極的に実施。特にInstagramでは 400 人以上のフォロワー、3000 件以上の投稿を実現。園の取り組みを積極的に発信することで、地域や保護者とのつながりを深め、園への理解と信頼の向上につながった。
- ・課題となっているのは職員不足である。令和 7 年度は年度途中でパート職員を 2 名雇用できたものの、正職員の途中退職や体調不良による欠勤などにより余裕をもった保育がで

きない場面も多々あった。今後も安定した保育体制を維持するため、最重要課題として職員採用および人材確保に引き続き取り組んでいく必要がある。

3. 当年度目標と施策

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

「自立」と「自ら考える力」を育む保育をテーマに掲げ、子ども一人ひとりが主体的に行動し学びへとつながる環境づくりを行う。これまで取り組んできた保育内容を見直しながら職員間で共有し、保育の質を整え安定して提供できる体制を固めていく。

- ・JPメソッドを軸とした運動活動を通して、体を動かす楽しさを感じながら主体的に挑戦する力を育む
- ・絵本や文字、数に触れる活動を通して、自ら考え学ぶ力を育む
- ・什のきまりを日々の生活の中で大切にし、思いやりや社会性など心の力を育む

① 保育活動 担当別

担当	目標
0 歳児	担任保育士との応答的保育により情緒の安定を図り、基本的信頼関係の土台作りを行います。運動ができる環境を整え、一人一人の発達段階に応じた粗大運動を積極的に取り入れ、運動能力を引き出していきます。又、五感を十分に働かせることができる人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促す。
1 歳児	自分でやりたい気持ちを大切に受容し、「待つ保育」に徹することで主体性の芽生えと意欲を大切に育みます。 散歩・サーキット運動・戸外遊び等自ら環境とかかわる経験の中で運動能力を高めていきます。又、五感を十分に働かせることができる人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していきます。
2 歳児	目の前にある環境に興味関心をもって自ら関わろうとする好奇心全開のエネルギーを最大限に受け止め、五感をとおして主体的に意欲的にかかわることのできる環境を整えていきます。 かけっこ・戸外遊び・運動遊びを通して運動能力を高めます。文字への関心も促していきます。
3 歳児	主体性を尊重し5領域の様々な保育活動の総合力と五感を大切にした徳・知・体のバランスのとれた発達を目指します。基本的なルールを理解をはじめ、創造性と表現力、感情の表現と理解を育んでいきます。
4 歳児	主体性を尊重し5領域の様々な保育活動の総合力と五感を大切にした徳・知・体のバランスのとれた発達を目指します。社会的スキルの発達や学習への興味と好奇心を育んでいきます。
5 歳児	主体性を尊重し5領域の様々な保育活動の総合力と五感を大切にした徳・知・体のバランスのとれた発達を目指します。就学に向けた取り組み、問題解決能力を育むための論理的思考力を育成します。

② 人材育成

保育理念および法人クレドを基盤とし、職員一人ひとりが専門性を高めながら互いに支え合い、子どもの最善の利益を実現する組織づくりを行う。

- ・「子どもの最善の利益」を追求するための専門性向上
- ・それぞれの役割を理解し、園や法人に貢献できる職員の育成
- ・法人クレド「仁義礼智信」を基盤とした組織作り

③ 運営管理

子どもたちが安心して生活できる安全な保育環境を整えるとともに、保護者や地域から信頼される園運営を行う。

- ・安全で安心な保育環境の整備
- ・保護者と信頼関係の構築
- ・地域との連携および園の魅力発信

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

【JP メソッドを軸とした運動活動を通して、体を動かす楽しさを感じながら主体的に挑戦する力を育む】

- ・子ども一人ひとりの発達や課題に応じた運動活動を実施。
- ・散歩や戸外遊び、体操、跳び箱などを通して体を動かす楽しさを感じながら主体的に挑戦する経験を重ね、体の力を育んでいく。

施策 2

【絵本や文字、数に触れる活動を通して、自ら考え学ぶ力を育む】

- ・石井式漢字絵本やプリント教材などを活用しながら、絵本の読み聞かせや文字・数字に触れる活動を日常の保育の中で取り入れる。
- ・乳児期から指先を使った遊びや表現活動を取り入れ、幼児期への学びへとつながる土台作りを行い、子どもたちが自ら考え学びに向かう姿勢を育んでいく。

施策 3

【什のきまりを日々の生活の中で大切にし、思いやりや社会性など心の力を育む】

- ・什のきまりを各クラスに掲示し、園生活の中で大切にしたい行動や心構えを子どもたちと共有する。
- ・日々の生活の中で挨拶や姿勢、返事などの基本的な生活習慣を大切にしながら、思いやりや社会性を育む保育を実践していく。

② 人材育成

施策 1

【「子どもの最善の利益」を追求するための専門性向上】

- ・園内研修や外部研修にも積極的に参加し、保育に関する専門知識や理解を深める
- ・日々の保育の振り返りや職員同士の学び合いを通して、子どもの発達や関わり方について理解を深める

施策 2

【それぞれの役割を理解し、園や法人に貢献できる職員の育成】

- ・先輩、後輩などの立場を理解し、互いに支え合いながらより良い保育環境づくりに取り組む
- ・職務分野別リーダーや専門リーダーなど、それぞれの役割を意識しながら園運営に主体的に関わる

施策 3

【法人クレド「仁義礼智信」を基盤とした組織作り】

- ・法人クレドを日々の保育や職員間の関りの中で意識し、互いを尊重した職場環境づくりを行う
- ・報告・連絡・相談を徹底し、信頼関係を基盤とした円滑な園運営を行う

③ 運営管理

施策 1

【安全で安心な保育環境の整備】

- ・施設の安全点検や避難訓練、不審者対策等を定期的を実施し、安全管理体制の強化を図る
- ・感染症対策や衛生管理を徹底し、子どもたちが健康に生活できる環境づくりを行う

施策 2

【保護者と信頼関係の構築】

- ・日々の保育の様子や園の取り組みを積極的に発信し、保護者との情報共有を大切にする
- ・保護者からの意見や要望を職員間で共有し、園運営の改善につなげる

施策 3

【地域との連携および園の魅力発信】

- ・未就園児イベントや地域との交流を通して、地域に開かれた保育園づくりを行う
- ・SNSなどを活用し、園の取り組みや魅力を積極的に発信する

年間保育日数（月ごと）

4月…25日 5月…23日 6月…26日 7月…26日 8月…25日 9月…23日
10月…26日 11月…23日 12月…24日 1月…23日 2月…22日 3月…26日
合計 292日

年間利用者数（月ごと）推定

4月…65名 5月…65名 6月…66名 7月…66名 8月…66名 9月…66名
10月…66名 11月…66名 12月…66名 1月…66名 2月…66名 3月…66名

職員数の推移（月ごと）推定

4月…24名 5月…24名 6月…25名 7月…25名 8月…25名 9月…25名
10月…25名 11月…25名 12月…25名 1月…25名 2月…25名 3月…25名

年間行事予定

季節の伝統行事は大切にし、何らかの形で取り入れていきます。

4月 入園式、保護者会
5月 こどもの日
6月 感触遊び、水遊び
7月 七夕
8月 夏祭り
9月 運動会
10月 ハロウィン
11月 保護者会
12月 乳児発表会、クリスマス会
1月 正月遊び、幼児発表会

2月 節分

3月 ひな祭り、お別れ会、卒園式

SAKURA 保育園谷在家 2026 年度事業計画

社会福祉法人慈光明徳会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都足立区谷在家 2-14-13

(2) 保育理念

- ・子どもの最善の利益を追求し保障していきます。
- ・子育てと仕事の両立支援に徹します。
- ・地域の子育て支援を行います。

(3) 保育方針

命を守ることを第一義にあげ、『保育所保育指針』に依拠し、安心・安全な環境のもと、以下のメソッドに基づいて教育・保育を行います。

- ・脳科学の知見を活かした適時性の保育・教育
- ・脳科学の知見を活かした身体づくり
- ・体の中から生きる力をはぐくむ「食育」
- ・自然を通した「五感教育」
- ・「躰教育」什のきまり・・・人として正しい行いを学びます。

上記、バランスの取れたプログラムにより、子どもの無限の可能性を引き出す環境の中で、変化する時代に対応できる「たくましく生き抜く力」を育みます。

(4) 保育目標

たくましく生き抜く力をはぐくみます

世のため人のために生きようとする日本を支える人財になってほしい。
そのために、自立した誇りある日本人としての土台をつくります。

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	100 名	89 名	91 名	+1 名	15 名	-6 名
0 歳児	9 名	8 名	9 名	+1 名	0 名	+9 名
1 歳児	15 名	15 名	15 名	0 名	0 名	+15 名
2 歳児	16 名	16 名	16 名	0 名	0 名	+16 名
3 歳児	20 名	15 名	14 名	-1 名	6 名	+14 名
4 歳児	20 名	14 名	13 名	-1 名	7 名	-4 名
5 歳児	20 名	16 名	18 名	+2 名	2 名	-2 名
フリー	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	33 名	32 名	4 名	3 名	(0 名)
保育士	27 名	25 名	3 名	1 名	(0 名)
保育補助	2 名	2 名	0 名	0 名	(0 名)
調理員（栄養士・調理師含む）	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
看護師	1 名	2 名	1 名	2 名	(0 名)
事務員	3 名	3 名	0 名	0 名	(0 名)

(3) 自己評価結果

施設自己評価実施時期：2025 年 03 月

自己評価結果 スコアランキング(大項目ごと)

ランク	項目	スコア	優先度
1	5. 乳児保育のねらいと内容	3. 20	中
2	13. 家庭との連携（在園児）	3. 20	中
3	7. 3 歳以上児のねらいと内容	3. 00	中
4	8. 健康支援	3. 00	中
5	1. 基本的理念と社会的責任	2. 80	高
6	2. 保育の配慮事項	2. 80	中
7	3. 計画・評価・育ちの見通し	2. 80	低
8	12. 災害対策	2. 80	高
9	4. 特別支援・障がい児保育	2. 75	中
10	11. 環境・衛生管理	2. 67	低
11	6. 1～3 歳未満のねらいと内容	2. 60	中
12	9. 食育の推進	2. 60	低
13	10. 安全管理	2. 60	高
14	15. 職員の資質向上	2. 40	低
15	14. 家庭との連携（地域）	2. 33	低

振り返り・課題

今年度の自己評価では、「乳児保育のねらいと内容」「家庭との連携（在園児）」「3歳以上児のねらいと内容」「健康支援」など、日々の保育内容や家庭との連携に関する項目において比較的高い評価となった。子ども一人ひとりの発達に応じた関わりや、保護者との情報共有を大切にしながら保育を進めてきた成果が表れていると考えられる。

一方で、「職員の資質向上」「家庭との連携（地域）」「食育の推進」などの項目では、やや低い評価となった。特に職員の資質向上については、研修の機会や学びを日々の保育にどのように生かしていくか、園全体で共有し実践につなげていくことが課題である。また、地域との連携や食育活動についても、保育の中での取り組みをより計画的に進め、園内外へ発信していく必要がある。

今後は、職員間の情報共有や振り返りの機会、内外の研修の機会を充実させるとともに、食育の取り組みなどを見直し、より質の高い保育の提供につなげていきたい。

(4) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・ 慈光メソッドの各年齢ごとの目標値を意識した取り組みをおこなう。
- ・ 足立区保育のガイドラインに基づく保育を参考にし、応答的な保育をする。
- ・ 園児管理システムの保育計画・振り返りを実践し PDCA サイクルをしっかりと行う

振り返り・課題

今年度は、慈光メソッドの各年齢ごとの目標値を意識した取り組みを行うことを目標としてきた。各クラスにおいて、JP メソッドを意識した保育を日々の活動の中に取り入れる姿が見られ、昨年度と比較して職員の理解や実践は少しずつ浸透してきていると感じられた。一方で、取り組みにはまだ差があり、継続的な理解の共有や実践の積み重ねが必要であるため、来年度も引き続き課題として取り組んでいきたい。

また、足立区保育のガイドラインに基づいた応答的な保育については、職員一人ひとりが子どもの姿をよく見つめ、子どもの思いを受け止めながら関わろうとする姿勢が多く見られた。子どもの気持ちに寄り添いながら保育を進めようとする意識が職員間で共有されていたことは大きな成果であったと考える。

園児管理については、全職員で情報を確認しながら保育を進め、必要に応じて振り返りを行うことで、より良い保育につなげようとする意識が見られた。今後も情報共有を大切に、園全体で子どもを見守る体制をさらに強化していきたい。

会議については、クラス会議は定期的な実施し、クラス内での報告・連絡・相談を行うことができていた。しかし、乳児会議や幼児会議については定期的な実施が難しく、十分な情報共有の場を確保することができなかった。今後は会議の機会を計画的に設け、クラス間での連携や情報共有をより充実させていくことを来年度の課題としたい。

② 人材育成

目標

- ・ 新人職員が、慈光明徳会クレドに基づいて業務にあたるようにする。
- ・ 新人職員が、SBT を受講し法人としての共通言語を理解し、目標を立て挑戦できるようにする。
- ・ 新人職員が、この法人で働きたいと心から思い、勤務継続し離職ゼロにする。

振り返り・課題

今年度は、報連相を遵守し情報を全職員で共有できる体制づくりを目標として取り組んできた。園児管理を活用し、日々の連絡事項や子どもの様子について伝達・共有を行ってきたが、一方で十分に確認できていない職員がいる場面も見られた。情報共有の手段は整っているものの、全員が確実に確認できる体制づくりにはまだ課題が残る結果となった。今後は、定期的に園児管理を確認する仕組みを整え、職員全体で情報を共有できる体制をより一層強化していきたい。

また、慈光メソッドおよびクレドを遵守した保育については、冊子の読み合わせを行ったり、園児管理を活用して内容を共有するなどの取り組みを継続してきたことで、職員の理解や意識は昨年度よりも浸透してきていると感じられた。しかし、読み合わせの機会は十分とは言えず、継続的な理解を深める場が必要であると感じた。今後は定期的にクレドの読み合わせの機会を設け、保育の理念や方針を職員全体で再確認しながら実践につなげていきたい。

保護者対応については、「本気の子育て応援隊」として保護者の気持ちに寄り添うことを意識しながら、職員それぞれが丁寧な対応を心がけていた。また、不明な点や判断に迷う場面では上司に確認しながら対応する姿も見られ、適切な支援につながっていたと感じられる。一方で、言葉の行き違いなどから保護者よりご意見やご要望をいただく場面も数件あったため、そうした声を真摯に受け止めながら、今後もより丁寧で分かりやすい対応を心がけていきたい。

研修については、内部研修・外部研修ともに機会を増やし、職員が学びを深められる環境づくりを行った。園内での研修だけでなく、足立区や東京都が実施する研修についても積極的に情報を周知し、職員が参加できるよう働きかけてきた。今後も引き続き研修機会の充実を図るとともに、職員一人ひとりが学びたい研修に参加できるよう支援し、園全体の保育の質の向上につなげていきたい。

③ 運営管理

目標

- ・ 園児の集客に向け、広報活動を強化する。
- ・ エアコンの掃除、業者で行う。

振り返り・課題

今年度は、クレドを遵守しながら職員が安心して働くことができる職場環境づくりを目標として取り組んできた。休憩については、できるだけ保育室を出て取るよう声掛けを行い、面談室で職員同士がリラックして休憩を取る姿も見られるようになった。第三者評価のアンケートでも、休暇の取りやすさや職員間の雰囲気について満足しているという声が多く、また今年度も正職員の離職が0名であったことから、働きやすい職場環境づくりが少しずつ進んできていると感じられる。一方で、個々の悩みや心配事、仕事の進め方についての疑問などを抱えている職員もいると考えられるため、今後も定期的に声掛けを行い、必要に応じて面談を行いながら職員一人ひとりに寄り添った支援を続けていきたい。

また、すくわくプログラムについては補助金を活用しながら保育内容の充実を図り、子どもたちが主体的に活動できる環境づくりに取り組んできた。保育の中で新しい教材や活動を取り入れることで、子どもたちの興味や関心を広げることにつながっていたと感じられる。今後も制度を活用しながら、子どもたちの育ちを支える保育内容のさらなる充実を図っていききたい。

園児の集客については、広報活動および子育て支援の強化を図り、今年度からお話会や身体遊び、夏祭りやクリスマス会など、地域の親子が参加できる活動を通した広報に取り組んできた。その結果、参加された方の中から入園を希望される方もおり、実際に入園につながったケースもあった。子育て支援の取り組みが園の理解や信頼につながることを改めて実感する機会となったため、来年度も継続して取り組んでいきたい。また、今後はさらに多様な内容を検討し、地域のニーズに応じた活動を充実させていきたい。Instagramやホームページなどを通して園の魅力発信にも積極的に取り組んできたが、安定した園児数の確保に向けては引き続き取り組みが必要である。今後も地域への情報発信や見学者への丁寧な対応を大切にしながら、園の魅力を伝える広報活動を継続していききたい。

3. 当年度目標と施策

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・ 慈光メソッドの年齢ごとのつながりを意識し、継続できる計画を立て、実行する
- ・ 子どもの思いや気持ちを受け止め、応答的に関わる中で、安心して自己を発揮できる環境・保育を保証していく
- ・ 保育内容の見直しや振り返りを行い、不適切保育の防止につなげる
- ・ ダンスや歌・ECCや読みなどで様々な音や言語に触れる

① 保育活動 担当別

担当	目標
0 歳児	○応答的関わりによる情緒の安定と愛着関係の土台作り ・ 身体能力の向上を図る（ころがる・しがみつく・動物歩き）（歩行の獲得） ・ 絵本の読み聞かせや音や声のやりとりを楽しみ、言葉の芽生えにつながる音・リズムに触れる。 ・ 離乳食のスムーズな進行と完了食への移行を行い、安心して食べる経験を大切にし、食への意欲や興味を育てる
1 歳児	○基本的な生活習慣への確立に向けて援助する。 ・ 身体能力の向上を図る（ころがる・しがみつく・動物歩き・散歩など） ・ 自分でやりたい気持ちを大切に受けとめ、主体性の芽生えを育む。 ・ 絵本の読み聞かせや対話などを大切に、言葉の発達・獲得を促す ・ 「待つ保育」で自立の芽生えを援助する ・ 自分で食べようとする意欲を引き出す ・ 制作などを通して、書いてみるということに興味を持つ
2 歳児	○基本的な生活習慣への確立・自立への援助 ・ 身体能力の向上を図る（ころがる・しがみつく・動物歩き・走るなど） ・ 文字・英語への関心を促していく。（フラッシュカード・ECC・読み聞かせなど） ・ ブロック遊びを通して空間認識を高める。 ・ なぐり書きで筆圧を付ける

	・他児とのかかわりの中で会話を楽しみ、社会性を身に着けていく ・自分で給食をたべる ・個々に合わせトイレでの排泄などに促し、生活習慣を身につける
3 歳児	○知・徳・体のバランスのとれた発達を目指す。 ・未来への十の決まりを知る ・身体能力の向上（JP・体操・走る・微細運動など） ・ひらがなが読めるようになる・絵本の読み読みをする ・友達とのかかわり方を知り、関係を築く ・緻密な手指の運動能力を獲得させる ・数量に興味を示すよう働きかけ、関心を持つ ・音楽や制作などのさまざまな表現活動を楽しむ ・食事の大切さを知り、自ら食べる ・ECCを通し、英語に興味関心を持つ ・生活習慣の基礎が完成し、自立する ・お当番活動ができる
4 歳児	○知・徳・体のバランスのとれた発達を目指す。 ・未来への十の決まりを守る ・身体能力の向上・力加減などの調整力の獲得（JP・体操・走るなど） ・文字や数量の獲得 ・ひらがなやカタカナなどを知り、自分で絵本を読む ・音楽や制作などのさまざまな表現活動を楽しむ ・食事の大切さを知り、自ら食べる ・ECCを通し、英語に興味関心を持つ ・身の回りのことを自分で行うことができる ・お当番活動ができる ・タブレット学習を用いて文字・数量・記憶・思考など様々なジャンルに触れ、学ぶ ・友達とのかかわりの中で、協力することを知り、チームワークの基礎を知る ・必要な我慢ができるようになる
5 歳児	○知・徳・体のバランスのとれた発達を目指す。 ・未来への十の決まりを守り、周りに伝えることができる ・高い身体能力の獲得（JP・体操・走る・なわとびなど） ・読み書き計算ができるようになる ・自分の思いや考えを言葉にして、書くことができる ・食事の大切さを知り、自ら食べる ・ECCを通し、英語が身近なものになる ・園のリーダーとしての自覚を持ち、お当番活動や行事などに取り組む ・お友達と協力をして物事を行うことができる。 ・仲間を応援することができる ・音楽や制作などのさまざまな表現活動を楽しむ ・小学校との接続期の連携体制を作り就学に繋げる ・身の回りのこと・準備などを自分で行うことができる ・必要な我慢ができる
フリー	なし

② 人材育成

- ・カタグルマを活用し、成長目標を明確にし、スキルアップを図る
- ・子どもたちの見本であるという意識とそれに伴った行動・発言をする
- ・報連相は速やかに行い、仲間であるという意識を持ちお互いに助け合う
- ・法人の研修や区内の研修などに参加できるようにし、キャリアアップを図る
- ・月ごとの園内研修を充実させ、マニュアルやルール共有を図る

③ 運営管理

- ・子育て支援や園の広報活動（Instagramなど）を充実させ、園児獲得につなげる
- ・職員の安心安全で働きやすい職場を目指していく。
- ・カリキュラムを浸透させ、各クラスつながりを持った保育を行う
- ・業務のICT化を進め、ペーパーレス化を進める

(2) 実施施策

① 保育活動

施策1

- ・3.4.5歳は今行っているカリキュラムの継続的な実施と実施内容をメモを取り、翌年度に活かす
- ・0.1.2歳児は年齢ごとに組み込んでほしい内容（動物歩きやかけっこ・なぐり書きなど）を明確に伝え、実行する

施策2

- ・安心して過ごせる生活リズムの保証
- ・否定ではなく受容の言葉かけ（「～したかったんだね」など）を標準化
- ・子どものペースを尊重し、「待つ」姿勢を職員全体で共有
- ・保育の価値観（声かけ・援助の仕方）を揃える園内研修の実施

施策3

- ・丁寧な記録を行う
- ・月1回の会議で気になったかわりなどの共有を行う
- ・園長・主任・リーダーなどのクラスの巡回を行う
- ・不適切保育に関する研修を実施する

施策4

- ・ワクワクタイムの継続
- ・毎日の歌・手遊び・リズム遊びの時間を取り入れる
- ・ECCの実施
- ・毎日の読み聞かせを園全体のルーティンにする

施策5

0歳児

①身体能力の向上（歩行）

- ・サーキット遊びや動物歩き・階段の昇降などを毎日行う。
- ・歩けるようになったら手をつないでの散歩に出かける

②絵本の読み聞かせや音や声のやりとり

- ・絵本の読み聞かせは毎日の取り組みとする
- ・たくさんの声掛けを行い、言葉を聞かせる

③離乳食のスムーズな進行と完了食への移行

- ・家庭との連携を図り、個別に進めていく

- ・無理はせず、食事が楽しいものであることを伝えていく

1 歳児

- ①身体能力の向上
 - ・ころがる・しがみつくサーキット遊びや戸外遊びなどを行う
 - ・動物歩き・かけっこ・階段昇降などは毎日行う。
 - ・指先を使った遊びや制作などを行う
- ②基本的な生活習慣への確立に向けて援助する。「待つ保育」で自立の芽生えを援助する
 - ・食事・排泄・睡眠・着脱などの確立に向け、一貫した関わりを行う
 - ・1日の流れを安定させ、毎日同じ順序で生活が進むようにする
 - ・自己主張を受け入れ、共感していく。
 - ・着脱・手洗い・片付けなどは、子どもの発達に合った難易度に調整し、援助を行う
- ③言葉の発達・獲得を促す
 - ・絵本の読み聞かせは毎日の取り組みとする
 - ・たくさんの声掛けを行い、言葉を聞かせる
 - ・職員との言葉のやり取りを楽しめるようにする
 - ・毎日の朝の会でフラッシュカード・季節の歌を実施する
- ④書いてみるということに興味を持つ
 - ・鉛筆やペンを持ち、自由に書く時間を毎日作る
 - ・制作などに書く（描く）という取り組みを入れる

施策 6

2 歳児

- ①身体能力の向上
 - ・ころがる・しがみつくサーキット遊びや戸外遊びなどを行う
 - ・動物歩き・かけっこ・階段昇降などは毎日行う。
 - ・戸外遊び時はマラソン（長距離を走る）を行ってから遊ぶ
 - ・指先を使った遊びや制作・袋を結ぶ動きなどを行う
- ②基本的な生活習慣への確立・自立への援助
 - ・食事・排泄・睡眠・着脱などの確立に向け、一貫した関わりを行う
 - ・「待つ」ことを大切にし、子どもが自ら挑戦できる環境を作る
 - ・自己主張を受け入れ、共感し、状況に粟さえた促しや対話をする
- ③文字・英語への関心を促していく
 - ・絵本の読み聞かせは毎日の取り組みとする
 - ・職員やお友達との言葉のやり取りを楽しめるようにする
 - ・毎日の朝の会でフラッシュカード・季節の歌を実施する
 - ・ECC を取り組める時間を毎日作る
- ④他児とのかかわりの中で会話を楽しみ、社会性を身に付けていく
 - ・自我の発達によるトラブルなどに、冷静に対応し、その子に合った声掛けなどを行う
 - ・子どもがはなしができるようになるため、まずしっかり聞くを徹底する
- ⑤なぐり書きで筆圧を付ける
 - ・書くことが楽しいと思える活動を行う
 - ・一定の時間集中して座って活動できるようにしていく

3 歳児

- ①身体能力の向上（JP・体操・走る・微細運動など）
緻密な手指の運動能力を獲得させる
 - ・毎日の体操・戸外遊び・ワクワクタイム（ダンス）・かけっこ・マラソンなどを行う
 - ・箸遊び・はさみの活動など指先を使う活動を実施する

- ②ひらがなが読めるようになる・絵本の読み読みをする
 - ・読むだけでなく、遊びの中でひらがなに触れる機会を毎日作り、ひらがなが読めるようにする。
 - ・0.1歳児向けなどの繰り返しの言葉のある簡単な絵本を用意する
- ③数量に興味を示すよう働きかけ、関心を持つ
 - ・1～100までの数の読みを行う
 - ・数遊びや今日は何人いる？など日々の会話などの中で数に触れる機会を作る
 - ・ブロックなどで空間認知能力を育みながら、重ねてあるのがいくつかなど考える
- ④友達とのかかわり方を知り、関係を築く
 - ・成長に伴い、トラブルも増えてくるが保育士が仲介に入り、解決していく方法や他児とのかかわりなどを学んでいく
- ⑤音楽や制作などのさまざまな表現活動を楽しむ
 - ・ワクワクタイムの実施
 - ・季節の歌を楽しむ
 - ・季節ごとの制作を楽しむ
- ⑥生活習慣の基礎が完成し、自立する
 - ・食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・挨拶は自らできる
- ⑦未来への十の決まりを知る
 - ・毎日唱和する
- ⑧お当番活動ができる
 - ・食事前後のあいさつなどを実施

施策7

4歳児

- ①身体能力の向上・力加減などの調整力の獲得（JP・体操・走るなど）
 - ・毎日の体操・戸外遊び・ワクワクタイム（ダンス）・かけっこ・マラソンなどを行う
 - ・箸遊び・はさみの活動など指先を使う活動を実施する
 - ・ゆっくり歩く・投げるなど自分の力をうまくコントロールできよう活動を行う
- ②文字や数量の獲得
 - ・ひらがなが書けるようになる
 - ・カタカナが読めるようになる。
 - ・1～200までの数唱ができる。
 - ・日常生活の中で数・量の概念に触れる経験をし、1～10の数が理解できる
 - ・5の分解ができる
 - ・ブロックなどで空間認知能力を育みながら、重ねてあるのがいくつかなど考える（見えない部分の数まで）
- ⑥音楽や制作などのさまざまな表現活動を楽しむ
 - ・ワクワクタイムの実施
 - ・季節の歌を楽しむ
 - ・季節ごとの制作を楽しむ
- ⑦未来への十の決まりを守る
 - ・毎日唱和する
- ⑧お当番活動ができる
 - ・食事前後のあいさつなどを実施
- ⑨タブレット学習を用いて文字・数量・記憶・思考など様々なジャンルに触れ、学ぶ
 - ・天神を活用し、慈光メソッドの天神のカリキュラムを活用して進める
- ⑩友達とのかかわりの中で、協力することを知り、チームワークの基礎を知る
 - ・グループでの活動などを取り入れ、友達と考えながら行えるようにする

- ⑪必要な我慢ができるようになる
 - ・他者がいることを理解し、必要な我慢をできる心を育てる

5 歳児

- ①未来への10の決まりを守り、周りに伝えることができる
 - ・毎日唱和する
 - ・10の約束を意識し、生活する
- ②高い身体能力の獲得（JP・体操・走る・なわとびなど）
 - ・毎日の体操・戸外遊び・ワクワクタイム（ダンス）・かけっこ・マラソン・跳び箱などを行う
- ③読み書き計算ができるようになる
 - ・生活点検表を活用し、取り組んだことや感情などを言葉で書き表す
 - ・プリントや天神などを活用し計算や数量・空間認識が見につける。
- ④園のリーダーとしての自覚を持ち、お当番活動や行事などに取り組む
 - ・毎日の決まったお当番活動を行う
 - ・行事ごとなどリーダーとして、行うべきことを集中してしっかりと取り組む
- ⑤お友達と協力をして物事を行うことができる。
 - ・お友達が何を考えているのか・どう感じているのかを察することができる
 - ・自分の思いに折り合いをつけながら協力して一緒に活動ができる
- ⑥音楽や制作などのさまざまな表現活動を楽しむ
 - ・ワクワクタイムの実施
 - ・季節の歌を楽しむ
 - ・季節ごとの制作を楽しむ
 - ・絵本などを読んだ後に感じたことを表現することができる
（読み聞かせの後に感想を聞くなど）
- ⑦小学校との接続期の連携体制を作り就学につなげる
 - ・幼保小の連携により、スムーズな接続期を過ごす。
- ⑧身の回りのこと・準備などを自分で行うことができる
 - ・個人のロッカーをきれいに使うことができ、荷物の管理を本人で行う
 - ・家庭との連携も図り、翌日の準備を子どもたちが行える環境を作る
- ⑨必要な我慢ができる
 - ・さまざまな場面における感情のコントロールをしっかりと行う
 - ・その行動がいいのかどうかの判断を自分で行い、必要な我慢をできる

② 人材育成

施策1

- ・研修後は必ず研修報告をかき、フィードバックも確認する
- ・個人目標を活用し、個々の目標を明確に必要なスキルアップにつなげる

施策2

- ・人の批判・クラスの批判や比べたりなどはしない。人としてのルールを守る
- ・子どもの見本であるという意識をいつも持つ
- ・園長・主任などは目に余る言動や行動などはしっかりと本人と話をし、改善を図る

施策3

- ・保育中にあった怪我・伝えたほうがよい子どもの姿・難しい保護者対応などは全て上司・クラス内で報連相をする。
- ・園児管理システム・カタグルマなどを活用し、全員が把握できるようにしていく。
- ・困り感を感じている職員には批判や否定ではなく、どうしたらいいかを共に考えあえるようにする

施策 4

- ・キャリアアップ研修や内部研修、足立区の研修など研修の機会を多くしていく
- ・カタグルマの目標などを活用し、受けた研修を案内していく
- ・JPTC の研修に参加（希望者）→フィードバックやアウトプットする
- ・各クラスや体操など ZOOM による情報交換を行う

施策 5

- ・会議の際に実施する園内研修の内容を充実させる
- ・各自が独自のルールにならないようにこまめに共有を図る

③ 運営管理

施策 1

- ・Instagram の投稿内容の充実を図り、認知度を上げる
- ・どのような活動に取り組んでいるのかなど発信をする
- ・子育て支援は幅広い活動を行い、参加しやすいものとする

施策 2

- ・ICT 化を進める
- ・園のルールや責任の所在などをはっきりとさせる
- ・一人一人がルールを守り、保育士としての質を向上させる

施策 3

- ・カリキュラムの説明・どのような保育をした以下の共有・園長の掲げる思いなどをしっかりと伝える

施策 4

- ・書類の管理方法をしっかりと決め、職員にも共有する。
- ・アプリを使用し、休暇申請・出退勤・勤務状況の確認などをスマートフォンを使って申請できるようにしていく

年間保育日数（月ごと）

4 月：25 日
5 月：23 日
6 月：26 日
7 月：26 日
8 月：25 日
9 月：23 日
10 月：26 日
11 月：23 日
12 月：26 日
1 月：23 日
2 月：22 日
3 月：26 日

年間利用者数（月ごと）推定

職員数の推移（月ごと）推定

年間行事予定

- 4月 入園式・進級式・身体測定・消火訓練・避難訓練
- 5月 身体測定・消火訓練・避難訓練・全体内科検診・保育参観
- 6月 身体測定・消火訓練・避難訓練・歯科検診
- 7月 七夕・夏祭り・身体測定・消火訓練・避難訓練
- 8月 身体測定・消火訓練・避難訓練
- 9月 身体測定・消火訓練・避難訓練
- 10月 運動会・ハロウィン・卒園旅行・身体測定・消火訓練・避難訓練
- 11月 身体測定・消火訓練・避難訓練
- 12月 クリスマス会・身体測定・消火訓練・避難訓練
- 1月 身体測定・消火訓練・避難訓練
- 2月 発表会・身体測定・消火訓練・避難訓練
- 3月 卒園式・跳び箱大会・身体測定・消火訓練・避難訓練

令和7年度 社会福祉法人慈光明徳会 障害児通所支援事業 L S J 竹の塚 事業計画

① 理念

すべての人の幸せを願って最善の利益を追求します 輝く瞳・溢れる笑顔

HAPPY SMILE THANK YOU SMILE
EVERYBODY SMILE

② 運営方針

「不易流行」

法人の理念である子供達の最善の利益の追求を行うために、子供達の安全と成長発達を第一に考えたサービスを行うという不易の部分を経営の土台としながら、子供達一人一人の成長発達を行うために、既存のやり方にこだわることなく、科学的な根拠の元、様々な方法を試みながら、サービスを展開していきます。

上記の考えの元、どの子にも、安心と達成感を味わうことのできる療育サービスを行います。私たちは、子供達にできないことを繰り返し練習させてできるようにするのではなく、できないことにぶつかった子供たちが、「〇〇があったらできた！」「〇〇したらできた！」「〇〇に変えたらできた！」と感じられるサポートをすること、これが「支援」だと考えています。

「安心感と達成感のための仕掛け」これが支援であり、その仕掛けを探し、見つけて、実践することが私たち療育機関の役割だと考えています。

子供達にとって意味のある活動を通して、「やった！」という達成感や「できた！」という達成感をたくさんえられるように支援していきます。

③ 療育の目標

私たちが目指す療育の最終的な目標は、「その子らしい自立」です。

自立とは、すべてを一人で行うことではありません。必要な支援や福祉サービス、周囲の力を活かしながら、自分の強みを発揮し、人生を前向きに歩いていくことだと私たちは考えています。

LSJ は、保育・幼児教育の分野で 82 年間、困り感や障がいのある多くの子どもたちと向き合ってきました。その実践の中で、私たちが揺るぎない確信として持っていることがあります。

「すべての子どもには、必ず素晴らしい可能性がある」ということです。

障がいは可能性を狭めるものではなく、その子を形づくる一つの特性です。不得意なことがあっても、必ず強みがあります。私たちはその強みを見つけ、丁寧に育てることを大切にしています。

子どもが安心して挑戦できる環境を整え、成功体験を積み重ねる中で、内側にある力を引き出していく支援です。

これまで関わってきた子どもたちの中には、運動・学習・表現・創造など、それぞれの分野で大きく力を伸ばしていった姿が数多くあります。私たちはその姿を見続けてきました。

「根を育てれば、樹は必ず育つ。」

幼少期に育てるべきものは、目に見える成果だけではなく、挑戦する力、やり抜く力、自分を信じる力といった“根”の部分です。その土台がしっかり育てば、将来どのような環境にあっても、その子は自分らしく花を咲かせることができます。

LSJ は、ご家庭や関係機関と連携しながら、職員がチームで支援を行い、子どもたち一人ひとりの可能性を本気で伸ばしていきます。

③ 事業内容

(1) 実施事業

児童発達支援事業、放課後等デイサービス

(2) 職員構成

管理者（児童発達管理責任者兼務）	1 名
児童指導員または保育士（常勤）	6 名
保育士パート	1 名

(3) 営業日、営業時間

月曜日～金曜日 9 時半～12 時、13 時～17 時半
土曜日、長期休暇期間 9 時半～17 時半

(4) サービス提供時間

児発：10 時～12 時 13 時半～17 時半
放デイ：平日 13 時半～17 時半 学校休業日 10 時から～17 時半

(5) 具体的な療育内容

- ☆運動療法（運動療法の詳細は別紙参照）
 - ・遊びを通じた、感覚・運動面に対する支援
 - ・日常生活における基本的動作の指導（道具や方法の検討）
 - ☆ 学習支援 習熟度に応じた学習支援
 - ☆ ご家族へのアドバイス
 - ☆ 各関係機関との連携
- ※利用児の状況に応じて、個別またはグループでの活動を設定する。

児童発達支援流れ

送迎～各人ごとの運動療法・SST（約1時間～2時間）～送迎

放課後等デイサービス流れ

（平日） 送迎～間食～学習支援（宿題含む）～自由遊び・運動療育～送迎
（学校休業日） 送迎～学習支援～昼食～自由遊び・体験学習・野外活動等～間食～自由遊び・体験学習・野外活動等～送迎

⑤ 施設の状況

賃借物件 1階テナント（東京都足立区竹の塚3丁目3番14号 パレスホリケファイブ101）

⑥経営（財務） 予算書参照

① 理念

すべての人の幸せを願って最善の利益を追求します 輝く瞳・溢れる笑顔

HAPPY SMILE THANK YOU SMILE
EVERYBODY SMILE

② 運営方針

子ども一人ひとりの性格や特性、感じ方、その日の気持ちを大切にしながら支援を行っています。

まずは、「ここに来ると安心できる」「ありのままで過ごしていい」と感じてもらえるよう、職員との関係づくりや落ち着いて過ごせる環境を整えることを支援の土台にしています。

子どもたちは、それぞれ得意なこと、苦手なこと、取り組み方法はそれぞれ違います。

そのため、同じやり方を一律に求めるのではなく、声かけの仕方や活動内容、環境を工夫しながら、その子に合った関わりを大切にしています。

「こうしたらできた」「やってみたらできた」という経験を重ねることで、子ども自身が達成感を感じ、「次もやってみよう」という前向きな気持ちを持てるよう支援していきます。

安心できる関係性の中で、その子らしく、楽しく活動に取り組める環境を整え、小さな成功体験を次の成長につなげていけるよう支援していきます。

③ 療育の目標

子どもたちが安心して様々な経験を重ねながら、少しずつ「できること」を増やしていくことです。

まずは、安心できる関係性と環境の中で、子ども一人ひとりが落ち着いて活動に参加出来るよう支援します。

「ここなら大丈夫」「自分はここにいていい」と感じる気持ちを育てていきます。そのうえで、失敗しても大丈夫だと感じられる関わりの中で、「やってみよう」と思える前向きな気持ちを大切にします。

職員がそばで見守り、必要に応じて援助を行いながら、子どもが安心して一步を踏み出せるよう支援します。

活動の中で「できた」「楽しかった」と感じる経験を積み重ねることで、自信や達成感を育み、次の活動や新しいチャレンジへの意欲につなげていきます。

また、運動や遊び、机上活動、集団での関わりを通して、体の使い方や感覚の調整、気持ちの切り替え、人とかかわり方やルールを学ぶ機会を大切にします。

一人ひとりの得意なこと好きなことに目を向けその子の良さや強みを大切にしながら、成長のペースに寄り添った関わりを行います。

子ども自身が安心して気持ちを出し、小さな一步を踏み出せるような関わりを日々の積み重ねの中で大切にし、ご家庭や関係機関と連携をとりながら、子ども一人ひとりの成長や発達を継続的に見守り、将来の生活や社会でのつながる力を育てていけるよう、職員が専門性を持って丁寧に関わり、支援していきます。

③ 事業内容

(1) 実施事業

児童発達支援事業、放課後等デイサービス

(2) 職員構成

管理者（児童発達管理責任者兼務）	1名
児童指導員または保育士（常勤）	5名
指導員	0名

(3) 営業日、営業時間

月曜日～金曜日 9時半～12時、13時半～17時半
土曜日、長期休暇 9時半～17時半

(4) サービス提供時間

児発：10時～12時 13時半～17時半
放デイ：平日 13時半～17時半 学校休業日 10時から～17時半

(5) 具体的な療育内容

- ☆運動療法（運動療法の詳細は別紙参照）
 - ・遊びを通じた、感覚・運動面に対する支援
 - ・日常生活における基本的動作の指導（道具や方法の検討）
 - ☆学習支援 習熟度に合わせた学習支援
 - ☆ご家族へのアドバイス
 - ☆各関係機関との連携
- ※利用児の状況に応じて、個別またはグループでの活動を設定する。

児童発達支援流れ

送迎～各人ごとの運動療法・SST（約1時間～2時間）～送迎

放課後等デイサービス流れ

（平日） 送迎～間食～学習支援（宿題含む）～自由遊び・運動療育～送迎
（学校休業日） 送迎～学習支援～昼食～自由遊び・体験学習・野外活動等～間食～自由遊び・
体験学習・野外活動等～送迎

⑤ 施設の状況

賃借物件 1階テナント（東京都足立区梅田7丁目25番2号 高須ビル101）

⑥経営（財務） 予算書参照

① 理念

すべての人の幸せを願って最善の利益を追求します 輝く瞳・溢れる笑顔

HAPPY SMILE THANK YOU SMILE
EVERYBODY SMILE

② 運営方針

「不易流行」

法人の理念である子供達の最善の利益の追求を行うために、子供達の安全と成長発達を第一に考えたサービスを行うという不易の部分を経営の土台としながら、子供達一人一人の成長発達を行うために、既存のやり方にこだわることなく、科学的な根拠の元、様々な方法を試みながら、サービスを展開していきます。

上記の考えの元、どの子にも、安心と達成感を味わうことのできる療育サービスを行います。私たちは、子供達にできないことを繰り返し練習させてできるようにするのではなく、できないことにぶつかった子供たちが、「〇〇があったらできた！」「〇〇したらできた！」「〇〇に変えたらできた！」と感じられるサポートをすること、これが「支援」だと考えています。

「安心感と達成感のための仕掛け」これが支援であり、その仕掛けを探し、見つけて、実践することが私たち療育機関の役割だと考えています。

子供達にとって意味のある活動を通して、「やった！」という達成感や「できた！」という達成感をたくさんえられるように支援していきます。

③ 療育の目標

児童一人ひとりの発達特性や課題に応じた支援を行うため、運動療育と机上活動を組み合わせた療育カリキュラムを実施する。

運動療育では、感覚統合の視点や JPTC の運動プログラムを取り入れた活動を行い、体の使い方やバランス感覚、姿勢保持、協調運動などの基礎的な身体機能の向上を目指す。

遊びや運動を通して成功体験を積み重ねることで、自己肯定感や挑戦する意欲を育てる。

また、机上活動では ICT 教材（すらら）を活用した学習支援を行い、児童一人ひとりの理解度やペースに応じた学習機会を提供する。

集中力や学習習慣の形成を図りながら、認知面や学習面の発達を支援する。

今後は、以下のカリキュラムを基本としながら、児童の特性や状況に応じて個別または小集団での支援を行う。

④人材育成

職員一人ひとりの専門性の向上を図り、より質の高い療育支援を提供できるよう人材育成に取り組む。運動療育の専門性を高めるため、JPTC の研修会を毎月 1 回（夜間）実施しており、参加可能な職員が参加できる体制を整えている。

また、JPTC トレーナー資格の取得を目指す職員に対して、研修参加や実践機会の確保など、資格取得に向けたフォロー体制の構築を進めていく。

さらに、職員の基礎的な支援力の向上を目的として、全職員がオンライン研修を受講できる環境を整え、継続的な学びの機会を確保する。

加えて、支援の専門性向上のため、該当する職員については

- 児童発達支援管理責任者研修（基礎研修・実践研修）
- 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）
- 相談支援専門員研修

などの専門研修の受講を推進し、事業所全体の支援力の向上を図る。

⑤ 事業内容

（１）実施事業

児童発達支援事業、放課後等デイサービス

（２）職員構成

管理者（児童発達管理責任者兼務）	1 名
児童発達支援管理責任者	1 名
児童指導員または保育士（常勤）	7 名
指導員	0 名

（３）営業日、営業時間

月曜日～金曜日	9 時半～12 時、13 時半～17 時半
土曜日、長期休暇	9 時半～17 時半

（４）サービス提供時間

児発	：10時～12時	13時半～17時		
放デイ	：平日	13時半～17時半	学校休業日	10時から～17時半

（５）具体的な療育内容

☆運動療法（運動療法の詳細は別紙参照）

- ・遊びを通した、感覚・運動面に対する支援
- ・日常生活における基本的動作の指導（道具や方法の検討）

☆ 学習支援 習熟度に応じた学習支援

☆ ご家族へのアドバイス

☆ 各関係機関との連携

※利用児の状況に応じて、個別またはグループでの活動を設定する。

児童発達支援流れ

送迎～各人ごとの運動療法・SST（約１時間～２時間）～送迎

放課後等デイサービス流れ

（平日） 送迎～間食～学習支援（宿題含む）～自由遊び・運動療育～送迎

（学校休業日） 送迎～学習支援～昼食～自由遊び・体験学習・野外活動等～間食～自由遊び・
体験学習・野外活動等～送迎

⑥ 施設の状況

賃借物件 １階テナント（東京都足立区谷在家２丁目１２番１０号 パークサイドレジデンス１階）

⑦ 経営（財務） 予算書参照

① 理念

すべての人の幸せを願って最善の利益を追求します 輝く瞳・溢れる笑顔

HAPPY SMILE THANK YOU SMILE

EVERYBODY SMILE

② 運営方針

開所から半年未満であり、児童発達支援の子どもの割合が多いことを踏まえ、子どもたちが安心して通所できるよう配慮した支援を行っています。職員は、子ども一人ひとりの状態に応じた関わりを基本とし、子どもやご家族への敬意、関わりの中で得られる学びへの感謝を胸に、謙虚な姿勢で安心して過ごせる環境づくりに努めています。

新しい環境や人との出逢いに不安を感じる気持ちに寄り添いながら、安心して過ごせる関係づくりを大切にします。日々の関わりの中で「楽しい」「一緒にいたい」と感じられる経験を積み重ね、少しずつ周囲と歩調を合わせたり、互いを認め合ったりできる順応性や協調性を育んでいきます。

③ 療育の目標

自分の気持ちを言葉や態度で相手に伝えることは、安心して人と関わり、自分らしく過ごすために大切な力です。例えば、「嫌だ」「やめてほしい」と伝えられずに我慢してしまうと、不安や怒りが大きくなってしまふことがあります。一方で、「今はやりたくない」「もう少し休みたい」と伝えることができると、相手に理解してもらいやすくなり、安心して活動に参加することができます。そのため、日々の関わりや遊びの中で、自分の気持ちを簡単な言葉やジェスチャーで相手に伝える経験を積み重ね、「伝えても大丈夫」「分かってもらえる」という安心感を育てていくことを目標とします。

活動の中で、「最後までできた」「楽しかった」「またやりたい」といった自分の気持ちを感じ、それを言葉や態度で相手に伝える経験を重ねていきます。自分の思いが受け止められることで、自分に対する自信や達成感を育み、その気持ちが次の活動や新しいチャレンジへの「やってみよう」という意欲につながるよう支援していきます。

このような関わりを通して、自分の気持ちを安心して表現できる力を育み、人とのやりとりの中で自信を持って自分らしく過ごせることを大切に支援していきます。

④ 事業内容

(1) 実施事業

児童発達支援事業、放課後等デイサービス

(2) 職員構成

管理者（児童発達管理責任者兼務） 1名

児童指導員または保育士（常勤） 4名

指導員

1 名

(3) 営業日、営業時間

月曜日～金曜日 9 時半～12 時、13 時半～17 時半

土曜日、長期休暇 9 時半～17 時半

(4) サービス提供時間

児発 : 10 時～12 時 13 時半～17 時半

放デイ : 平日 13 時半～17 時半 学校休業日 10 時から～17 時半

(5) 具体的な療育内容

☆運動療法 (運動療法の詳細は別紙参照)

- ・遊びを通した、感覚・運動面に対する支援
- ・日常生活における基本的動作の指導 (道具や方法の検討)

☆ 学習支援 習熟度に応じた学習支援

☆ ご家族へのアドバイス

☆ 各関係機関との連携

※利用児の状況に応じて、個別またはグループでの活動を設定する。

児童発達支援流れ

送迎～各人ごとの運動療法・SST (約 1 時間～2 時間)～送迎

放課後等デイサービス流れ

(平日) 送迎～間食～学習支援 (宿題含む)～自由遊び・運動療育～送迎

(学校休業日) 送迎～学習支援～昼食～自由遊び・体験学習・野外活動等～間食～自由遊び・
体験学習・野外活動等～送迎

⑤ 施設の状況

賃借物件 1 階テナント (東京都足立区梅島 1-6-12 シルバーピア梅島 102 号室)

⑥経営 (財務) 予算書参照